

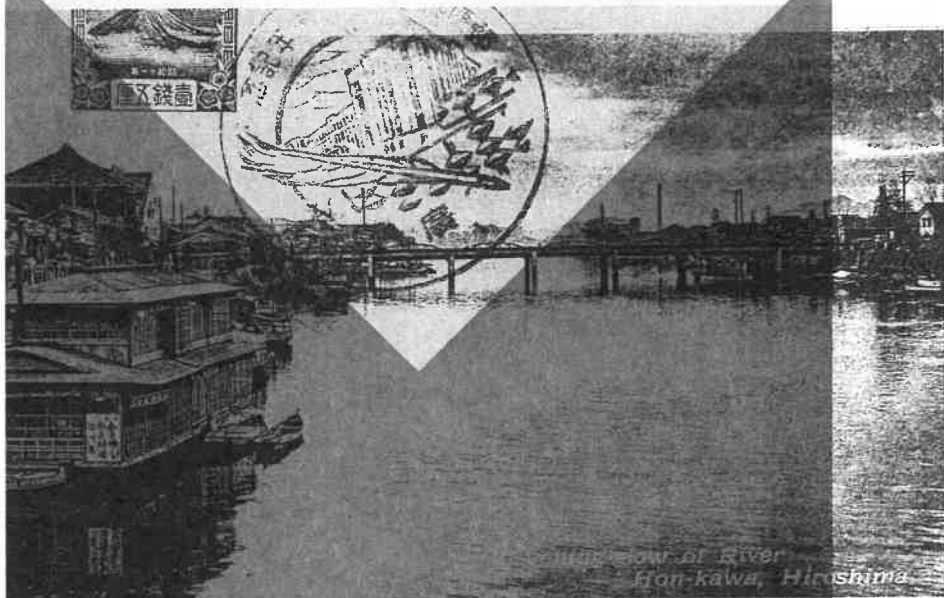
HIROSHIMA

[仮称]

広島市博物館

展示基本計画 要約版

平成4年3月 株式会社トータルメディア開発研究所



CITY MUSEUM

1.「広島市博物館基本構想」の再整理

(1)

社会的状況と 市民の意向

社会的背景

現在、人々の暮らしにおいては、価値観やライフスタイルが多様化するとともに経済水準の向上により実現した物質的な豊かさに代わって、精神的な「ゆとり」や「豊かさ」が求められ始めている。そのため、「知性」や「学習」といった精神的欲求の充足に対する要望は、今後ますます高くなると考えられる。また現在、日本は、世界における政治的・経済的な役割が増大するとともに、文化的にもさまざまな形での国際交流事業が進展しており国際化が都市や市民レベルにまで及ぶ傾向は、いっそう強くなるであろう。

《市民は文化をどのように考えているか》

平成元年発行の「広島市民生活調査報告書」に基づいて、市民の文化施設と国際化施策に対する要望を見てみると、文化水準を高める施設として「美術館、博物館、音楽ホールなど、広域的で専門的な文化施設の整備」に対する要望は高く、また「外国との文化の相互理解や交流」といった国際化への対応や、生涯学習の場として、身近で手軽であるとともに、高レベルで専門的な学習機会も強く求めている。

《広島市が掲げる都市像》

広島市は「国際平和文化都市」の建設をめざして、「平和都市」「文化都市」「国際都市」の3つの都市づくりを掲げているが、そのひとつ「文化都市づくり」の都市像実現のために6つのまちづくりの基本理念が設定され、この基本理念のひとつ「豊かな人間性をはぐくむまちづくり」の中で展開されている文化的施策は、次の5つが柱となっている。

- ① 生涯にわたる学習の推進 ④ スポーツ・レクリエーション活動の振興
- ② 女性の社会参加の促進 ⑤ コミュニティづくりの推進
- ③ 豊かな文化環境の創造

人々が精神的な「ゆとり」や「豊かさ」を求める傾向と国際化の急速な進展は、広島市民の意向の中にも、現実的な要望として現われている。一方、広島市が推進する文化的施策は、この社会的動向に対応するものとして進められており、広島市博物館整備も、その一環として位置づけられている。

今後、博物館建設にあたっては、これらを前提とし、時代のニーズに的確に応え得るものとして計画を進める必要がある。

博物館を
めぐる状況

広島市博物館の今後の方向性を探る参考とするため、近年の博物館の建設動向と利用状況を見たところ、博物館数も利用者数も、確実に増加しているが、館種や規模により、利用状況に差が現われている。また特筆すべき点として、社会的な文化ニーズの高まりが見られるなか、博物館利用頻度の低調さと、美術館との比較において、狭義の博物館イメージについてマイナスの要因が見られる。今後の博物館づくりにおいては、このギャップをいかに克服するかが課題となる。

The graph illustrates the annual visitor numbers to various museums in Tokyo. The Y-axis represents the number of visitors in units of 10,000, ranging from 0 to 1,200,000. The X-axis shows the years from 1956 to 1974. The series include: 動・水・植 (Animals, Water, Plants), 動物園 (Zoo), 水族館 (Aquarium), 植物園 (Botanical Garden), 理工(科学) (Science and Technology), 平均 (Average), 美術 (Art), 自然史 (Natural History), 歴史 (History), and 郷土 (Local History).

Year	動・水・植	動物園	水族館	植物園	理工(科学)	平均	美術	自然史	歴史	郷土
56	1180	700	380	290	170	120	90	60	50	40
57	1110	620	400	270	160	115	85	55	45	35
58	780	640	300	220	170	110	80	50	40	30
59	940	750	410	290	160	115	85	55	45	35
60	1140	620	350	250	150	110	80	50	40	30
61	980	650	380	210	160	105	75	45	35	25
62	810	620	380	220	160	110	80	50	40	30
63	740	710	410	250	160	115	85	55	45	35
平成元	700	680	450	240	160	110	80	50	40	30
2	880	610	590	270	170	115	85	55	45	35

単語	博物館 (実線)	美術館 (点線)
美しい	かなり	かなり
知的な	かなり	かなり
手ごしらえ	かなり	かなり
不安な	かなり	かなり
不快な	かなり	かなり
無駄な	かなり	かなり
重々とした	かなり	かなり
癒される	かなり	かなり
文化的な	かなり	かなり
閉鎖的な	かなり	かなり
暗い	かなり	かなり
身近な	かなり	かなり
親しみやすい	かなり	かなり
ない	かなり	かなり

—— 博物館
----- 美術館

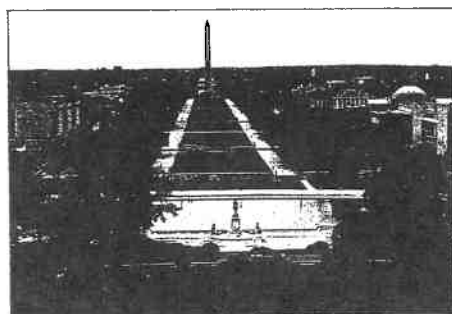
※ここで表記した「狭義の博物館」とは、郷土、歴史（考古・民俗を含む）、自然史、理工および総合博物館を指す。

国外・国内に見る博物館像

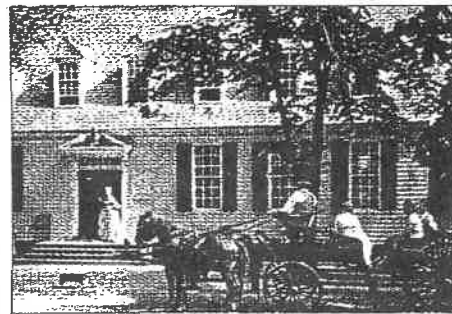
新しい博物館像を構築するにあたり、まず、欧米、および日本の優れた参考事例などを見、その動向を探る。

《欧米の事例》

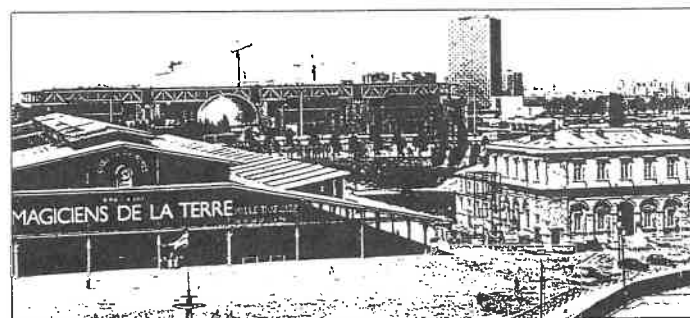
- ① スミソニアン博物館群（アメリカ）…各施設を群としてネットワーク化
本部であるスミソニアン館を中核に、14の博物館等を群としてネットワーク化した世界最大の博物館群であり、アメリカのナショナル・アイデンティティの確立の場と位置づけられている。
- ② ラ・ヴィレット（フランス）……………都市機能を持つ「公園」
科学・産業・芸術・自然に関する多面的な施設を計画的に集中設置し、一種の都市機能を持たせた、実験型「公園」スタイルの文化施設。
- ③ 野外博物館（アメリカ）……………テーマ性や地域性が明確な参加型博物館
明快なテーマ性や地域性を持ち、展示においては、生活復元、あるいはコスチュームスタッフの配置による生きた生活のある姿を展示する、参加型展示を行っている。



スミソニアン博物館群（アメリカ）
「スミソニアン案内」（1991年 スミソニアン協会）より



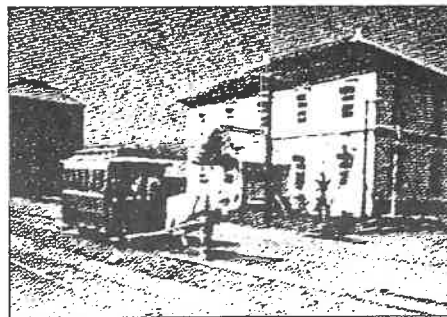
コロニアル・ウィリアムズバーク（アメリカ）
「世界の博物館事典」（1979年 創言社）より



ラ・ヴィレット（フランス）
「NHK衛星スペシャル 世界デザイン紀行2 21世紀デザインの旅」（1989年 創言社）より

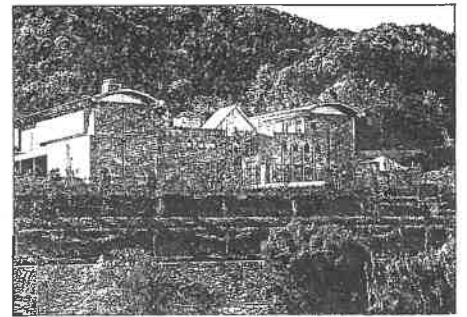
《日本の事例》

- ① 北海道開拓の村……市街地や集落の機能を再現した体験的野外博物館
移設復元にとどまらず、市街地や集落の機能をも再現し、来場者に体験的な理解をうながしている。またボランティア活動による施設解説も実施している。さらに屋内機能を分担する北海道開拓記念館では、先駆的な展示展開・事業を実施している。
- ② 徳島県文化の森総合公園……文化施設を集中させた総合公園
中核的文化施設を総合公園の中に集中立地。「文化情報コア」21世紀館を中心に各施設の連携と施設外や他都市施設との情報交換も行っている。
- ③ 川崎市市民ミュージアム……日常的な文化学習活動の広場
「都市と人間」を基調テーマに異分野の複合化をめざしている。See(展示を見る)・Do(体験して学ぶ)・Think(考えて研究する)の3つの機能を備え、体験することで、新しい創造へと導く参加型の博物館である。
- ④ 国立民族学博物館……総理解の促進をめざす学術研究拠点
大学における学術研究の発展と、資料の公開等教育活動の推進を行っている。総合的な理解を促すため、実物資料に加え、精密な10分の1模型、原寸大復元、民族学地図などのグラフィック解説、さらに映像提供など、先駆的な技術・手法を駆使している。



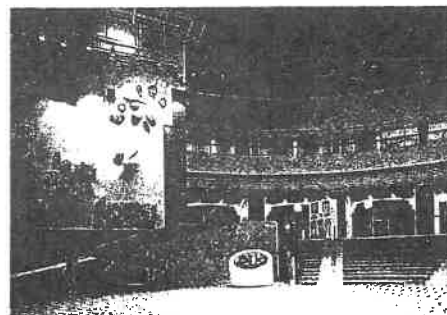
北海道開拓の村

「北海道開拓の村」リーフレット(1985年9月 財北海道開拓の村)より



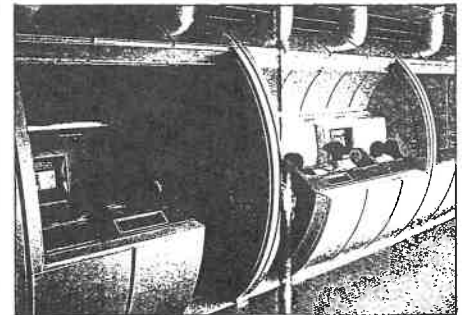
徳島県文化の森総合公園

「日経アーキテクチャ」(1991年1月21日号〈第391号〉日経BP社)より



川崎市市民ミュージアム

「KAWASAKI CITY MUSEUM」ガイドブック(川崎市市民ミュージアム)より



国立民族学博物館

「民博早わかり」(平成元年9月13日 第1刷発行 財団法人文化財団)より

ユネスコの掲げる博物館像

「新しい博物館像」を描くうえでの参考文献として、第11回ユネスコ総会で採択された「博物館をあらゆる人に開放する最も有効な方法に関する勧告」を見ると、「あらゆる種類の博物館は娯楽と知識の根源である」、と謳われている。これは、博物館を〈調査・研究〉〈収集・保管〉〈公開・教育〉という基本機能に則したうえで、一種の知的娯楽性の要素を加え余暇活動の範囲で気軽に文化に接することができる複合的な学習・余暇施設として捉えるということを意味している。またそれは、いいかえれば「都市の文化生活を楽しむ場」という、新しい博物館像の認識であるといえるであろう。

新しい博物館像への展望

国外・国内の参考事例およびユネスコ総会での勧告から、今後の新しい博物館は、「都市の文化生活を楽しむ場」として、人々の文化的欲求を満足させ、その文化的向上に貢献するとともに、世界に発信しうる新しい文化を創り出していくための「文化創造の出発点」として位置づけることが必要であるといえる。そのために参考とした施設では、体験性や参加性のある活動を積極的に展開することにより、興味や理解を深め、施設の利用度も高めようとする方向がうかがえる。また一分野一施設だけでの活動の枠を超え、複数分野や異種施設との「群化・複合化」による、多元的でかつ総合的な展開も新しい潮流としてみることもできる。これらの背景と潮流に基づき、新しい博物館像への展望を具体化するため、以下の7つの重視すべき視点を抽出する。

① 地域研究の重視

地域に根づいた学術的研究の蓄積をはかり、地域の文化的アイデンティティの確立を実践することで、国際的にも通用し得る個性ある都市づくりを支援していく。また地域の行政・文化・産業・開発などの計画に際しても、素材を提供し得る文化的シンクタンクとして機能させる。

② 創造性の重視

さまざまな場面での、誘関心→誘学習→誘行動という「知的欲求深化の過程」を装置化し、文化の消費に止まらない「創造」に向かわせるきっかけづくりを行なう。

③ 知的娯楽性の重視

自ら参加し、楽しみながら学ぶ、あるいは知る楽しみを発見できる、体験性の高い、面白さのある博物館をめざし、利用の促進を図る。

④ 総合性の重視

個（部分）と全体、“もの”とその背後、また、その総合的な関連が把握できるような情報を提供し、より総合的・全体的な認識を導く構造を持つ。

⑤ 発展性の重視

市民や時代とともに歩み、常にその時の市民や時代のニーズを吸収して市民も博物館も互いに成長発展する性格を強く持たせる。

⑥ 快適性・利便性の重視

環境・人材などによる物的・人的接遇の快適さと、施設やシステムなどの利便性に配慮し、博物館を利用する人に、「心地よさ」を感じさせる。

⑦ 国際性の重視

諸外国の人々にも都市像を正しくアピールして相互理解を促し、市民にも外国の文化を紹介するなど、国際的な広がりを持つ博物館活動を行う。

※ 群化・複合化

さらに、「新しい博物館像への展望」で述べた「群化・複合化」の動向も重要である。広島市においては、昭和57年度『広島市博物館基本構想』ですでに「博物館群の考え方」としてこのビジョンが展開されているが、ここでは次章において『広島市博物館群構想』として詳しく検討する。

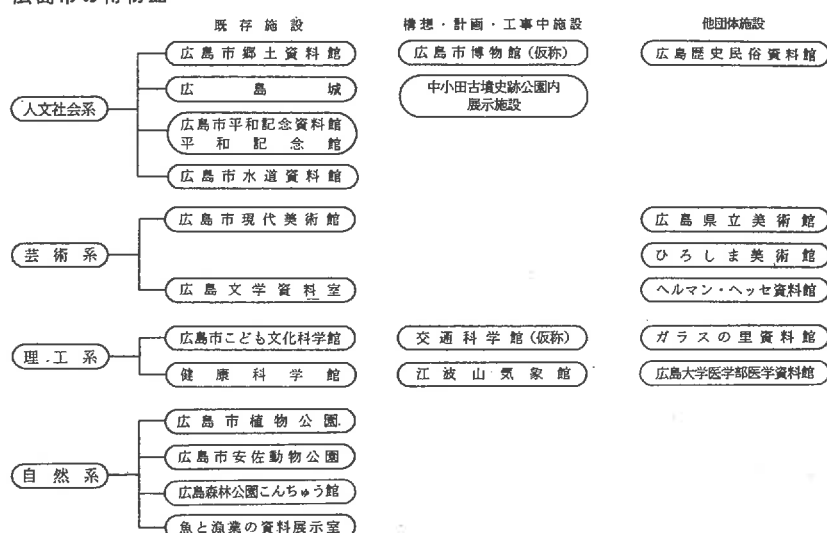
(3) 広島市博物館 群構想

広島市における博物館行政の 現状と課題

《広島市における博物館の現状》

現在、広島市には、市の公的機関により設置された博物館12館、他団体・民間の設置した博物館6館、構想・計画・工事中の博物館4館の合計22館がある。この22館のうち登録博物館は、広島市郷土資料館、広島県立美術館、ひろしま美術館、広島市こども文化科学館の4館である。

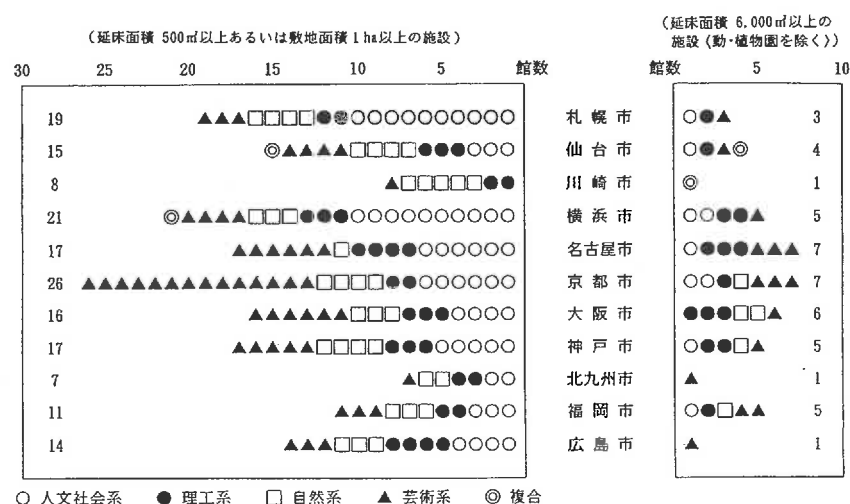
広島市の博物館



《他政令指定都市との比較》

現在、広島市における延床面積 500㎡以上の館数は構想中を含めて14館、全政令指定都市の平均である15.6館をやや下まわり、特に大規模館の整備については、他の政令指定都市平均が 4.2館であるのに比べ1館となっており本格的な博物館の整備が急がれている。

政令指定都市域内における規模別・分野別博物館設置状況



群構想の新たな展開

《群構想の基本方針》

① 専門館的な博物館の分散化

専門的な博物館を整備し、その質的・量的拡充を図ることで、博物館の
魅力度を向上させ、多様な文化活動への参加利用の機会をつくる。

② 博物館のネットワーク化

分散化させる専門館的な博物館のネットワーク化をはかり、広島とそれにかかわる事項のすべてを語り得る博物館群を形成する。

③ 博物館の活動の拡大化

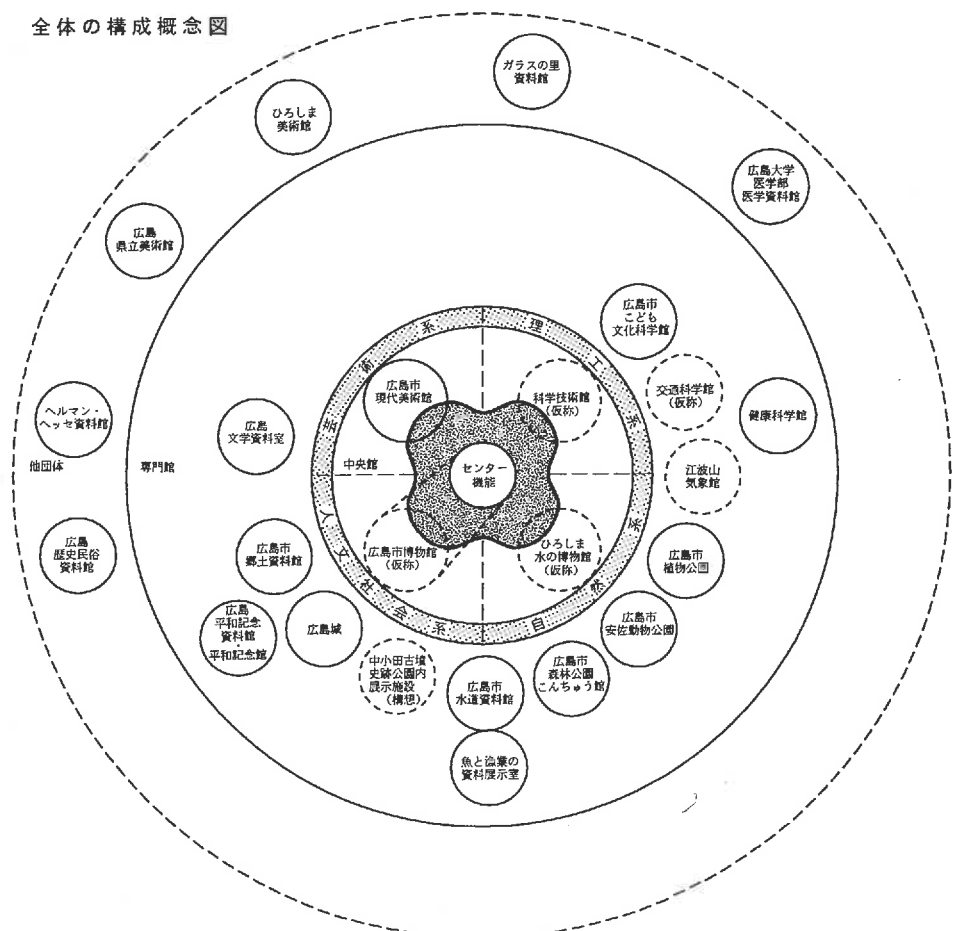
博物館相互の融合・交流にとどまらず、群化の概念をさらに広げ、従来の博物館活動の枠を超えた、共同イベントなどの活動を行う。

《全体の構成》

基本的な構成は『広島市博物館基本構想』と同じものになるが、それぞれに具体的な役割と機能を付与する。

また用語としての「本館・分館」は組織的上下関係を暗示しているため、この用語を「中央館・専門館」に改める。

全体の構成概念図



《センター機能》

博物館群を一体として機能させるためには、群全体をネットワーク化し、これら全体を総合的に調整するセンター機能を設定する。ネットワークの機能としては、以下のものが考えられる。

① 情報のネットワークセンター機能

オンライン・データベースの運用、共同出版物の編集・発行、博物館群全体のPR活動、博物館以外の異種施設・団体との情報交流、国際的な情報交流、等。

② 活動のネットワークセンター機能

共同研究・共同事業の企画・実施と総合調整、共同企画事業（博物館群異種施設・団体）、研究・展示・収蔵機能の相互補完・相互利用の推進と調整、等。

③ 人材のネットワークセンター機能

博物館専門職員等の人材育成のための一括的研修やセミナーの開催、人材交流活動の推進（会議、研究会、シンポジウムなど）等。

④ 管理運営のネットワークセンター機能

博物館群運営協議委員会の設置、共同企画・共同事業・共同研究などに伴う資金の調達・運用、等。

《中央館と専門館の役割と機能》

全体的な博物館群ネットワークを効率的に機能させるため、人文社会系、芸術系、理工系、自然系の4つの分野に分類し、その分野内での役割と機能を整理する。

① 分野の中核となる中央館をつくる。

人文社会系・芸術系・理工系・自然系のそれぞれの分野において、各専門館を補完する機能と調整する機能を持つ中央館をつくる。

② テーマ性豊かな専門館を展開する。

より特徴的なテーマを持った専門館を新たに整備していく。テーマ設定にあたっては、分野・領域にこだわらず、ユニークなテーマも積極的に扱っていく。また既存の専門館は、群化のメリットを生かし、そのテーマをいっそう発展・深化させる。

博物館群構想の充実に向けて

《センター機能を有する博物館の設置》

現在、計画を進めている当博物館を、センター機能を有する博物館とする。

《新設館の提案》

① 中央館として

自然系博物館「水の博物館（仮称）」と、理工系博物館「科学技術博物館（仮称）」の2館を検討したい。

② 専門館として

「中世以前をテーマとする博物館」設置が実現すれば、広島歴史系博物館の内容が網羅的になると考えられる。

③ その他

ユニークなテーマ性を持つ専門館を設置することも考えられる。

《広域都市圏におけるネットワーク》

群構想の展開は行政区域としての市域にとどまることなく、将来的には広島の文化圏を包含した広いエリアの中でこれをとらえ、情報交換や共同事業の実施など各施設間の連携をはかっていくことも考慮する。

《新たな博物館設置における要件の整理》

① 立地に関する条件

- テーマ性

群全体を補完するにふさわしい、明確なテーマ性を持ったものを計画的に整備して行く必要がある。

- 周辺との一体性

文化・商業・観光施設などを一定の範囲に集積し、相乗的な集客効果をあげつつ周辺との一体性を持つ立地計画が必要となってくる

- アクセス

市民の日常的な参加を促すため、公共交通機関との連携を持ったアクセスが重要となる。また、駐車場の十分な確保も重要である。

② 施設に関する条件

- 施設規模

展示面積の十分な確保と、今後の博物館活動を見通した施設規模の確保が必要である。

- 快適性

市民の自発的な利用を促進し、再来性を高めるには、開放的で快適な環境を創出することが重要な要素となる。また館職員にとっても、大切な要件となる。

2. 広島市博物館全体計画

(1) 施設の 位置づけ

3つの性格

多様なテーマに基づく、複数の博物館を有機的に連続させ、多面的な視点から広島とそれにかかわる事項のすべてを語らしめる、という群構想に基づき、広島市博物館を次のように位置づける。

① 特徴あるテーマに沿った専門館機能を有する施設

広島市の近・現代に重点を置く歴史・民俗系の専門館として、体系的な資料調査研究・収集・保存・展示・企画事業を行い、市民の文化的・社会的・歴史的な関心と意識を啓発し、学習活動を支援する知識・文化情報の発信基地とする。

② 人文社会系博物館の中央館機能を有する施設

広島市における人文社会系博物館の中央館として、系内それぞれの専門館活動の連携と補完を行い、人文社会系博物館の学術研究の振興をはかる中心施設とする。

③ 広島市博物館群のセンター機能を有する施設

広島市における、人文社会系・芸術系・理工系・自然系の各分野を包含した博物館群のセンターとして機能させ、博物館の群全体の活動を活性化するための事業を行い、学術文化・地域文化の創造の拠点とする。

(2) 施設の 基本理念

3つの理念

『広島市博物館基本構想』の再整理において、博物館事業の具体化への視点として、地域研究の重視、創造性の重視、知的娯楽性の重視、総合性の重視、発展性の重視、快適性・利便性の重視、国際性の重視、という7つの重視すべき視点を挙げた。これらの視点に基づき、広島市博物館の基本理念を設定する。

① 市民指向の博物館

市民へ積極的に働きかけることにより、生涯学習・研究活動を促し、さまざまな文化活動や文化創造を誘発する場とする。また市民に愛され市民と共に歩み、自分たちの博物館であるという自覚と誇りを持ちうる博物館とする。

② 広島探究の博物館

広島市を中心とする、地域社会への文化的・社会的・歴史的な理解を深めるため、基本となる学術的な研究の蓄積を図り、地域文化の創造へ新たな素材を提供する博物館とする。

③ 国際感覚の博物館

世界の中の広島という認識に立ち、研究、展示や諸活動の積極的な交流を図り、諸外国との相互理解を促進する。真に国際平和文化都市建設の認識に立ち、自ら国際的な視野と発想を持つ博物館とする。

活動のありかた

前述の3つの基本理念に基づいて、活動のありかたを次のように考える。

《市民指向の博物館として》

- ① 市民参加の機会拡充や文化創造活動を促進するための、学習活動の重視
- ② 市民の自主的な学習を支援するための、情報サービス体制の強化
- ③ 文化情報の発信源とするための、各種事業の積極的な展開
- ④ 市民の博物館活動への自主的参加を支援するための、参加型運営の推進

《広島探究の博物館として》

- ① 地域研究の蓄積と発展を図るための、地域研究活動の推進
- ② 地域の文化的アイデンティティの確立に寄与するための、新しい地域研究の創造
- ③ 広島とこれにかかわる全体像の理解を促進するための、世界を視野に入れた研究活動の展開

《国際感覚の博物館として》

- ① 外国の文化を紹介したり外国に広島の都市像をアピールするための、国際的な相互理解の促進
- ② 研究に国際的な広がりを持たせるための、国際的な学術交流の推進

(3) 事業の展開

6つの事業

《基本的考え方》

「市民指向の博物館」「広島探究の博物館」「国際感覚の博物館」の基本理念の実現のため、また人文科学系の中央館及び博物館群のセンターとして機能させるため、事業区分にあたっては従来の「学芸」事業を「研究」「学芸」「学習」に専門化する。また市民の学習活動の支援と文化の複合化を行うため、「情報サービス」「企画」事業を設定し特徴ある事業展開を図る。

事業区分 「研究」「学芸」「学習」「情報サービス」「企画」「管理」

《事業概要》

各事業の概要は次のとおりである。それぞれの詳細な内容については、別途「事業計画」の中で述べる。

① 研究事業

歴史・民俗・比較文化など人文社会系の広い分野にわたる学問の専門的な研究を推進する。

② 学芸事業

歴史資料、民俗資料など博物館に収蔵する資料を対象とした体系的・継続的な調査研究、収集、保存管理及び展示活動を行う。

③ 学習事業

学習活動を支援するための各種学習プログラムを企画・実施する。また館内外の職員・市民等を対象とした研修を実施する。

④ 情報サービス事業

博物館における各種情報の提供の場として、専門図書を収集・公開するとともに、情報のデータベース化を行い、市民の学習支援とレファレンス対応を図る。

⑤ 企画事業

博物館群の活性化と文化の複合化及び国際的な展開を図るため、各種イベントや広報・出版事業、国際交流事業を行う。また博物館群全体の運営・調整を行う。

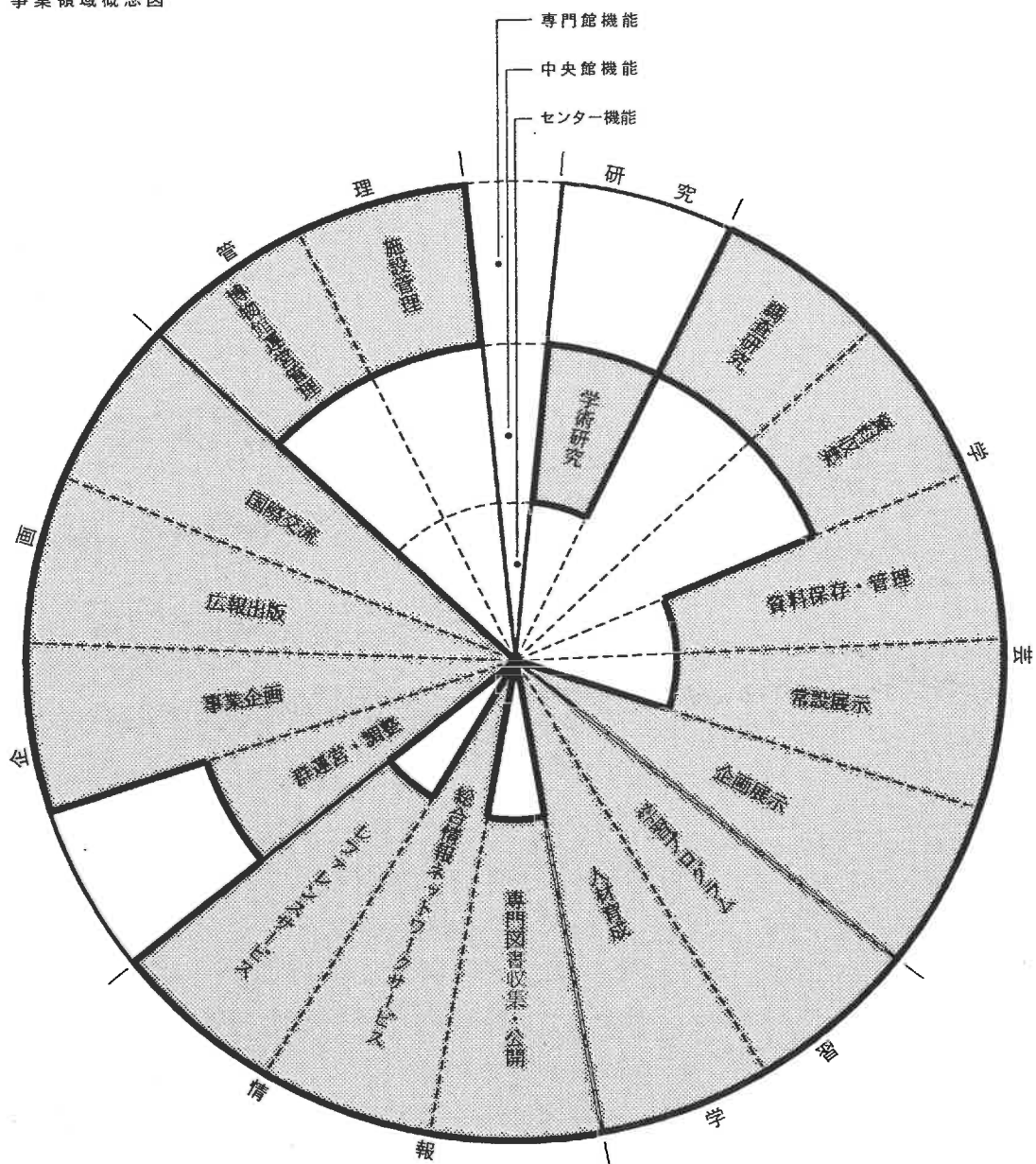
⑥ 管理事業

博物館を運営するための管理業務を行う。

《事業領域の考え方》

各事業が受け持つ事業領域を下図のように設定し、「特徴あるテーマに沿った専門館機能を有する施設」「人文社会系博物館の中央館機能を有する施設」「広島市博物館群のセンター機能を有する施設」の3つの性格を体現していく。

事業領域概念図



3. 事業計画

(1) 研究事業

《基本的考え方》

従来の博物館活動における調査研究を超えて、人文社会系全般を対象とした独自の研究事業を展開し、当館事業の要とする。

- ① 近・現代の広島にかかわる学術的研究の蓄積が十分とはいえない現状をふまえ、人文社会系博物館の専門館として、この分野での学術的研究の強化をはかる必要がある。
- ② 人文社会系の中央館として高い専門性と幅広い分野を対象とした研究活動とその蓄積が必要である。
- ③ 新しい地域文化の創造を促進する研究活動においては、高い専門性に加え学際的な活動及びより自由で独創的なものをも対象とする柔軟性が必要である。
- ④ 国際的な活動の広がりを推進するためには、海外の博物館や研究機関と相互に交流可能な、高い研究レベルを確保する必要がある。

《事業内容》

- ① 学術調査研究
 - 広島とそれに関わる考古、歴史、民俗から、都市、比較文化など、人文社会系での専門的で学際的な研究を行う。
- ② 共同研究・研究者交流
 - 国内、国外の博物館・大学・研究機関等と、情報交換並びに共同研究を行う。
 - 国内、国外の博物館・大学・研究機関等との、積極的な研究者交流を図る。
- ③ 博物館活動の支援
 - 展示、学習、情報サービスの各諸事業を支援する。

(2) 学芸事業

《基本的考え方》

学芸事業は、研究事業とは区分し、基本的には博物館資料を中心とした、「調査研究」「資料収集」「資料の保存・管理」「展示」の諸活動を行う。

《事業内容》

① 調査研究・資料収集

- 近・現代の広島の都市と市民生活、および国際交流にかかわる歴史資料およびその関連資料に関して、収集のための調査研究、収集資料の調査研究、これらに関連する調査研究を行う。
- 資料の所在調査・収集の適否の検討をし、調査研究により選定された資料の収集または購入・調査研究用の資料の収集・他博物館との資料の交換などを行う。なお、文化的・歴史的な価値のあるものはもちろん、現在機能しているもの、新しいものも調査・収集対象となる。また、人文社会系の中央館としての機能補完の意味からも、近世以前の美術工芸・文書などの歴史資料についても、今後、調査・収集する必要がある。

② 資料の保存・管理

- 収集資料の登録、記録・管理、燻蒸、修復を行うとともに、保存・修復技術の研究を推進して、収蔵資料の保存に努める。収蔵庫の設定については資料の保存環境・管理の面からも考慮したうえで、「民俗資料」「美術工芸資料」「考古資料」「文書資料」に区分する。なお、化学製品等の新しい材質や資料形態の、保存技術についての特別の研究体制を考慮する必要がある。また、開館後も資料収集は継続されるため、十分な収蔵スペースの確保が必要である。さらに、産業機械等の大型・重量資料については、別途設定する。
- センター機能の具体化として、群内の博物館の収蔵機能を補完する。また一般市民の所蔵品も含めた館外の資料についても必要な修復作業を行うことも検討する。
- 資料の活用が十分はかれるよう、資料情報の総合的な管理システムを導入する。

③ 展示

- 展示については、別途「展示計画」において述べる。

(3)

学習事業

《基本的考え方》

「市民指向の博物館」として、学習事業は、市民の博物館活動への参加の拡充、ひいては生涯学習、文化創造活動へと結びつけるための中心的な機能のひとつである。さらに、一般利用者に加えて、館内外の博物館職員、博物館事業に関心を持つ市民なども対象とした、研修事業等をも包含する広義の学習事業として展開する。こうしたことから、従来の「（教育）普及」の概念を超えたものとして、「学習」という事業名称を使用する。

《事業内容》

- ① 人文社会系内の博物館、博物館群内の異なる分野の博物館との合同企画による学習プログラムを行う。学習プログラムとしては、展示の理解を促進するためのプログラム、講座・実習などのプログラム、学校教育を補完する独自のプログラム、障害者のためのプログラムなどを、企画・実施する。また、各学習プログラム作成のための資料・教材の開発・製作、及びこれらの外部への提供を行う。
- ② ボランティア活動は、博物館の活動を内部から支援することにより自らも学ぶという実践的な学習の一形態として考えることが適当であるが、当館においては、学習、情報、企画の各部門での活動が考えられる。また、ボランティアの育成については実際の活動による実践的な学習に加えて、体系的な育成プログラムをも検討する。さらにボランティア独自の組織化を促す方向性も検討する必要がある。
- ③ 「友の会」的な組織は、会員の博物館への興味を学習プログラムへの参加やボランティア活動など、積極的な活動へと転化させるとともに、組織自体の独自事業の実施も検討する必要がある。
- ④ 学芸員・職員の資質向上のための研修体系の確立、大学生などを対象とした研修会・実習の企画・開催、系内博物館及び博物館群全体の学芸員・職員の資質向上をめざした合同研修会の開催などによる人材育成を行う。

(4)

情報サービス 事業

《基本的考え方》

- ① 近年の博物館は「モノ」の収蔵・蓄積から「情報」の蓄積・提供へと、その役割を変貌しつつある。幅広い情報を具体的に外部に提供する体制を整備することにより、「地域研究」の拠点としての役割を具現化する。
- ② 各博物館の持つ情報を、博物館群のセンター機能を受け持つ立場で、広範囲に集約化を図り、情報センターとしての性格を体现する必要がある。
- ③ サービス体制は、「専門図書の収集、公開」「総合情報ネットワークサービス」及び「レファレンスサービス」の3つとし、それぞれを相乗的に機能させる。また多様な利用目的を持つ人々に対して、使いやすく親切できめ細かなサービスができるよう配慮する。

《事業内容》

① 専門図書の収集・公開

- 人文社会系の幅広い分野にわたる専門・一般図書を収集し、公開する専門図書館機能を整備する。蔵書数は、他館の例にならい、少なくとも10万から15万冊以上を目標とする。

② 総合情報ネットワークサービス

- 広島市博物館群のセンターとして、群を構成する博物館の各種情報をデータベース化し、情報ネットワークサービスを行う。なお、館内では情報ライブラリーをはじめ、館内各所において、その場所に応じた情報の提供サービスを行う。なお、ネットワークサービスのシステム構築に関する内容は別途検討する必要がある。

③ レファレンスサービス

- 広島の人文社会系の博物館の幅広い分野にわたる、研究者や市民からの問い合わせに対して、人的対応を中心とするホスピタリティの高い情報提供及び相談サービスを行う。なお多岐にわたるであろう問い合わせに対して適切な対応を確立するため、各専門部門との連携をはかる必要がある。

(5) 企画事業

《基本的考え方》

博物館事業の「企画」を独立した事業として設定する。事業の柱は、「群運営・調整」「事業企画」「広報・出版」「国際交流」の4つとする。

《事業内容》

① 群運営・調整

- 市民ならびに有識者による博物館運営協議会の運営を行う。
- 人文社会系内の博物館との連携を促進する連絡調整会議を主催する。
- 群全体の連携を促進するための連絡調整会議を主催する。

② 事業企画

- 企画展・シンポジウム・館外事業などのイベントの企画を行う。
- 企業など外部団体・機関の支援による共同イベントの企画を行う。
- C A T V（ケーブルテレビジョン）など時代に即した新しいメディアを利用した、独自の広報、学習事業を実施する。
- 展示・普及に関連したビデオ、映画の製作・提供を行う。
- サービス部門のためのオリジナル商品、展示関連メニューの開発を行う。
- 系内博物館、博物館群全体あるいは分野を超えた複数の博物館との合同イベントの企画を行う。
- 他の文化施設との合同イベントの企画を行う。

③ 広報・出版

- 博物館、系内博物館、及び博物館群全体のP R、事業案内を目的とした定期刊行物の編集・発行を行う。
- 常設展示、企画展示に関する図録・解説書の編集・発行を行う。
- 調査研究の成果を公開する研究紀要・出版物等の編集・発行を行う。

④ 国際交流

- 姉妹都市など海外の博物館と、群全体の博物館の研究交流・展示交流の企画及び総合調整を行う。
- 外国人向けのガイドンスと展示解説サービスを行う。
- 外国人向けの系内博物館及び博物館群全体の、総合案内サービスを行う。

4. 展示計画

(1) 展示の 基本方針

新しい博物館像への展望の項で検討した、7つの具体化への視点に則って展示展開をはかる。

① 地域研究の重視

広島の人文学・歴史にかかわる、広島独自の学術研究の成果を展示に反映させる。

② 創造性の重視

観覧者の知的好奇心をかきたて、自主的な学習意欲や文化創造の動機づけとなる展示を演出し、セミナーなどの学習事業やライブラリーなどの情報サービス事業とも連携して、自主的な学習活動を支援する。

③ 知的娯楽性の重視

見るだけの展示から参加体験を通じて、体感できる展示とし、実物・模型・原寸大復元などのほか、映像・コンピュータグラフィックスなど多彩かつ先進的な展示手法で、観覧者が楽しみながら学習参加ができるように工夫する。また、時間軸を中心とした展示構成のほか、テーマ軸を中心とした歴史的事項も取り上げ、知的な刺激に富み、再来性を重視した展示構成・展示空間とする。

④ 総合性の重視

“もの”とその背景（生活、歴史、自然）、部分と全体などの関係を明らかにし、総合的な理解をめざす。またショップ、レストランなども展示機能の延長としてとらえ、展示内容の理解を促進するための事業を行う。

⑤ 発展性の重視

常設展示においても、必要に応じて展示の部分的更新をはかることのできる発展的展示システムとする。企画展示では、常に社会、市民の動きや課題をとらえ、タイムリーな企画展開をはかってゆく。

⑥ 快適性・利便性の重視

集中とリラックスのリズムとバランスのとれた展示動線・展示配置を心がける。また、老人、身障者などにも十分な配慮を加える。また、観覧者の知的レベルやニーズに応じて、詳しい解説シートを用意するなど、適切な情報提供に配慮する。

⑦ 国際性の重視

広島の世界史の理解を一層はかり、外国文化の紹介を積極的に行うため、国際的な視点に立った内容を盛り込み、企画展の開催をはかる。また、来館する外国人に向けて外国語併記のパネル製作や外国語印刷物の配布及び展示解説サービスなどを充実させ、展示内容の理解を促進する。

(2)

展示の構成

《展示構成の考え方》

『広島市博物館基本構想（昭和57年度策定）』ならびに『比治山の博物館常設展示計画（昭和58年度策定）』における展示構成の考え方を以下のように再整理する。

① 展示は、常設展示と企画展示によって構成する。

② 常設展示

- 主要展示としての「市民生活展示」「都市展示」「国際交流展示」はこれらの要素が複合的に関連する個別テーマをいくつか設定し、これを展示の柱として再構成する。
- 時代的には、主に明治以降の近・現代に重点をおいた内容とするが、人文社会系博物館の中央館機能を果たす意味において、また重点をおく近・現代という時代が、広島の全体史の中でどのように位置づくかを把握するために、原始・古代から現代に至る広島の歩みを「総合通史展示」において総合的に解説する。

③ 企画展示

- 比較的固定的な常設展示に対して、常に新しい情報を発信し、社会や市民の動きに対応した話題を提供していく。

《全体テーマ》

● 都市と市民生活のダイナミズム

都市と人の暮らしが互いに有機的につながり、影響し合って生み出された「時代の姿」は、いつの日も力強く、人々の心になにものかを語りかけてくる。とりわけ、近・現代において、広島原爆被災を挟んだ前後の時代は、広島が持つ独自の歴史であり、なおかつ、その時代のわが国のありさまの典型でもあった。まさしくそこには都市と市民生活における普遍的真実が含まれているはずである。そして、それは世界に向けて発信し得る、有意義な“広島発のメッセージ”といえよう。

広島の明日を探る広島市博物館の展示は、先人たちがそれぞれの時代において、それぞれの時代の人・都市・暮らしを築いてきた活力と変遷の姿を探ることにより、望ましい未来への糧とすることをめざすものである。

《展示構成一覧表》

ゾ ー ン		構 成 主 旨	全 体 テ ー マ	個 別 テ ー マ	展 示 方 針	展 示 演 出 の 考 え 方
常設展示	総 合 通 史 展 示	広島をの歴史を総合的・体系的に展示することにより、「広島」をより深く理解する場とする。また最新の学問的成果を展示内容に反映させる。	都市と市民生活のダイナミズム	「広島をの歴史」 1 (太田川デルタと庶民の暮らし)	太田川とデルタに着目し、そこで展開された、原始・古代から近世までの広島の人々の暮らしや政治・経済・文化の動きを総合的に解説する。	考古資料・歴史資料などの実物資料や、模型・ジオラマなどで展示する。
		「広島をの歴史」 2 (近代都市広島をの成立と市民生活)		広島をの都市としての近代化の歩みとその特徴を、明治から現代までの歴史的イベントや事項から追うとともに市民生活の諸相を表現し、近代の広島をの歩んできた歴史を概観する。		
	近 現 代 ゾ ー ン I	広島をの近・現代史の重要なテーマを取り上げこれらを「時間軸」に沿った形で多面的に構成し常設展示における中心的な展示ゾーンとする。		「昭和初期の中島町」 (失われた町と暮らしの再現)	近世城下町から戦前までのにぎわいの中心であり、戦後は平和記念公園として広島をを象徴する空間である旧中島町を再現することにより、近代の市民生活文化の一断面をうかがうとともに、暗喩的に平和を問い直す場とする。	昭和初期の旧中島町の町並みを原寸大復元する。季節ごとの展示替えや、コスチュームスタッフを配置することなどにより、当時の暮らしぶりが生き生きと体感できるようにする。
				「戦前の盛り場と大衆文化」 (戦前の大衆娯楽と文化の隆盛)	近代都市の成立と近代市民層の誕生により出現した盛り場における、戦前の大衆娯楽と文化の隆盛を、当時の歓楽街の中心であった「新天地」を取り上げることで探る。	新天地の縮尺模型をメインに、実物・模型・映像・音声などで展示する。
				「原爆被災」	原爆資料館との内容の重複を避け、被害の実態を具体的に示すのではなく、原爆被災の恐怖や悲しみなど、すべての意味を、沈黙の中に込めた展示空間とする。	前後の展示場面の転換を図る演出とする。
				「市民生活の復興と進展」 (復興のエネルギー)	ヤミ市から始まる広島駅前をの復興を中心に被爆から立ち上がる復興過程とそれに伴う市民生活の進展を展示し、現代につながる広島をの、もうひとつの原点(出発点)を検証する。	実物・写真・グラフィック・模型などで展示する。
				「現代の広島」	復興以降から現代までの急激な変化の中で、都市と市民生活の諸層を多角的に検証し、その意味を探り、広島をの明日を考える契機とする。	映像を主体に展示する。
				「現在の広島」	日々変わっていく市街を展望塔より鳥瞰し、リアルタイムな広島をを実感する生きた都市展示とする。	展望塔から現在の広島をを眺望する。
	近 現 代 ゾ ー ン II	上記で語り得なかった重要なテーマに関して個別的に深く掘り下げた「テーマ軸」による展示を行う。また、展示テーマおよび展示資料は比較的短いサイクルでの更新をはかり、常に新鮮な興味を引き出せる展示ゾーンとする。		「広島をの民俗」	広島をの民俗の特徴について展示する。生業・生活・習俗・年中行事などを相互に関連させながら地域の暮らしが実感できる内容とする。	収集資料を中心に展示を構成。
				「広島をの海外移住」 (広島人と海外との接点)	広島をの近・現代史の特徴である「移住」について展示し、その背景などを明らかにするとともに国際理解、比較文化などの視点からその生活史をたどることにより今後の世界の中での人の交流のあり方を考える。	収集資料を中心に展示を構成。
収 蔵 展 示	上記で展示しきれない資料群を可能な限り展示することによって、各展示ゾーンで引き出された観覧者の学習意欲をさらに満たすことのできる展示ゾーンとする。		収集資料のうち、上記 3 ゾーンで展示できなかった資料を展示する。	収集資料を中心に展示を構成。必要最小限の解説・演出にとどめ、観覧者が直接資料と対話できる空間とする。		
企画展示			随 時 設 定	専門領域にとどまらず、自由な視点でのテーマ設定を行うとともに、新しい型の企画展示を追求する。 群構想に基づき、他館及び他文化施設との共同による企画を展開する。 館主催の企画展示のほか、国内や外国の博物館等との共同企画による特別展開催などを積極的に推進する。	常設、仮設什器を合理的に活用する。 企画展示室のみでなく、周辺スペースと連動し、企画規模に対応するフレキシブルな空間利用をはかる。	

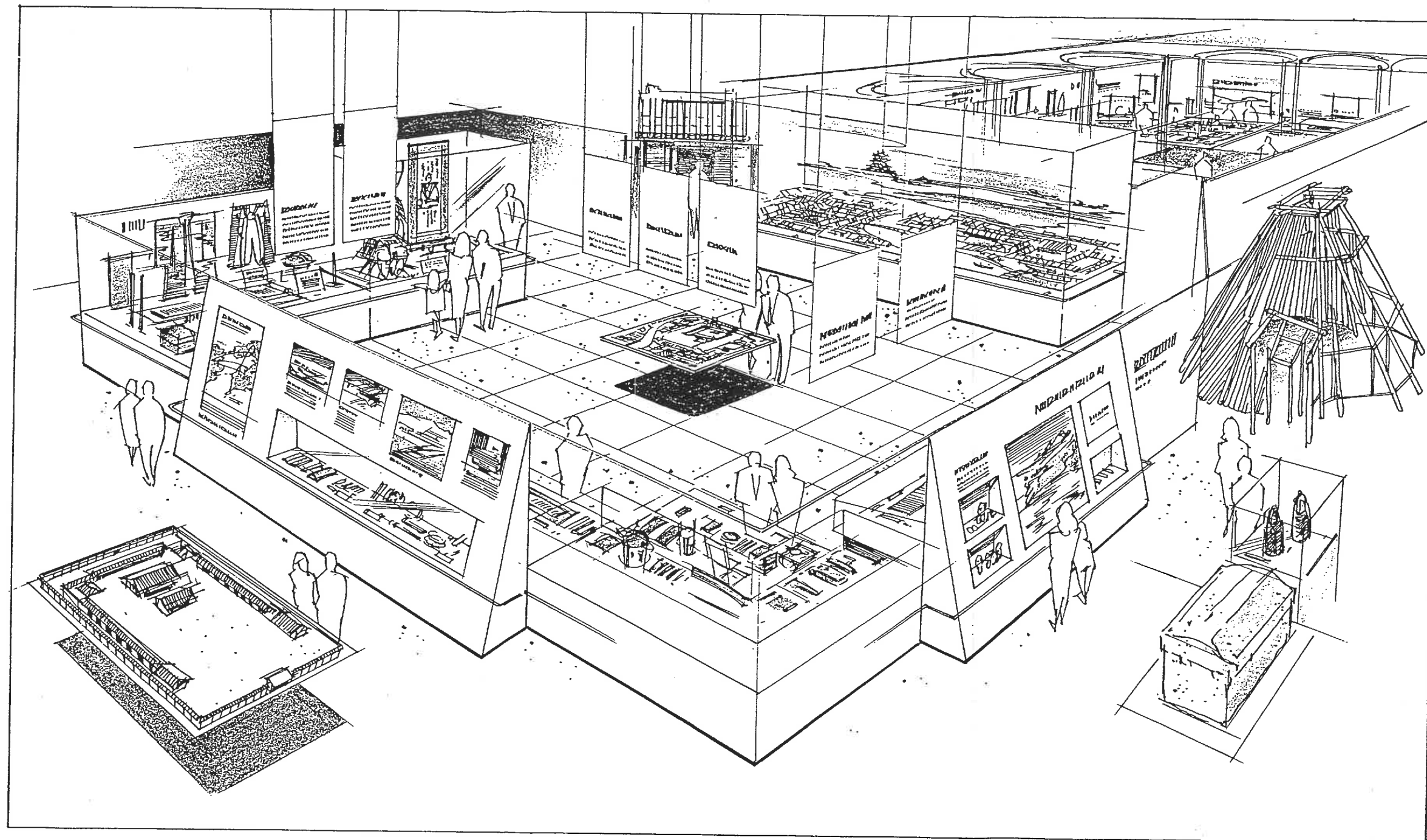
《復元遣唐使船の取扱い》

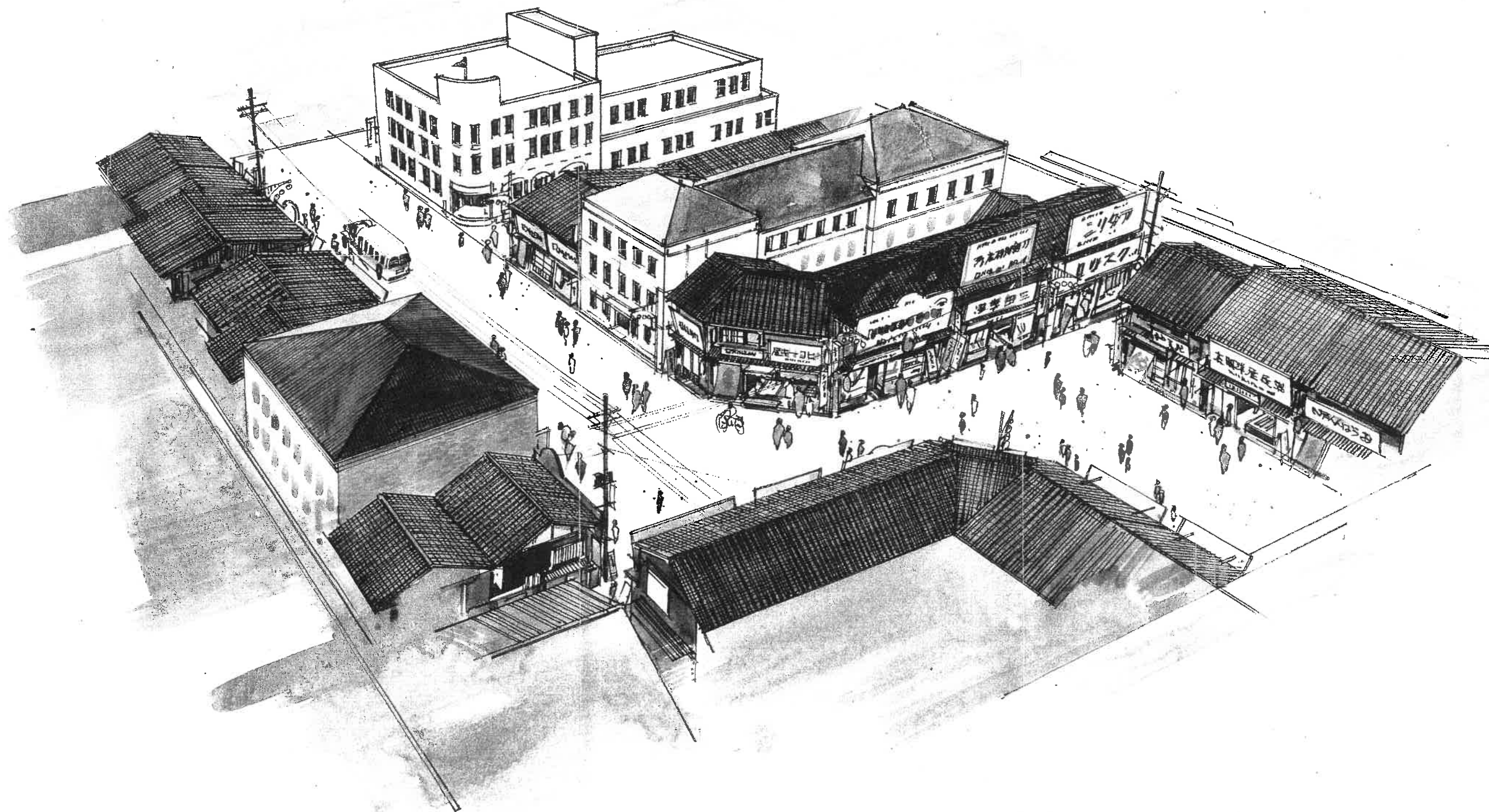
「'89海と島の博覧会・ひろしま」の自治体館の展示物として建造された復元遣唐使船については、従来広島市博物館構想の中で比治山の博物館において展示することが考えられていたところであるが、次の理由により比治山の博物館には展示しないものとする。

- ① 近・現代を中心テーマとする博物館の展示・施設面計画を具体的に検討した結果、建設予定地は丘陵地であるため建築面積には限度がある。従って総合通史の展示も限られた面積の中で展開することとなり、相当なボリュームをもつ復元遣唐使船を展示することは、空間的に他の展示・収蔵・学習・研究部門等に影響を及ぼし、施設全体の有効面積を勘案するときわめて困難であると考えられる。
- ② 復元遣唐使船の比治山への輸送には、物理的・技術的にさまざまな困難があるとともに、相当の費用（新規に遣唐使船を建造する程度）が必要となる。

《展示計画イメージスケッチ》

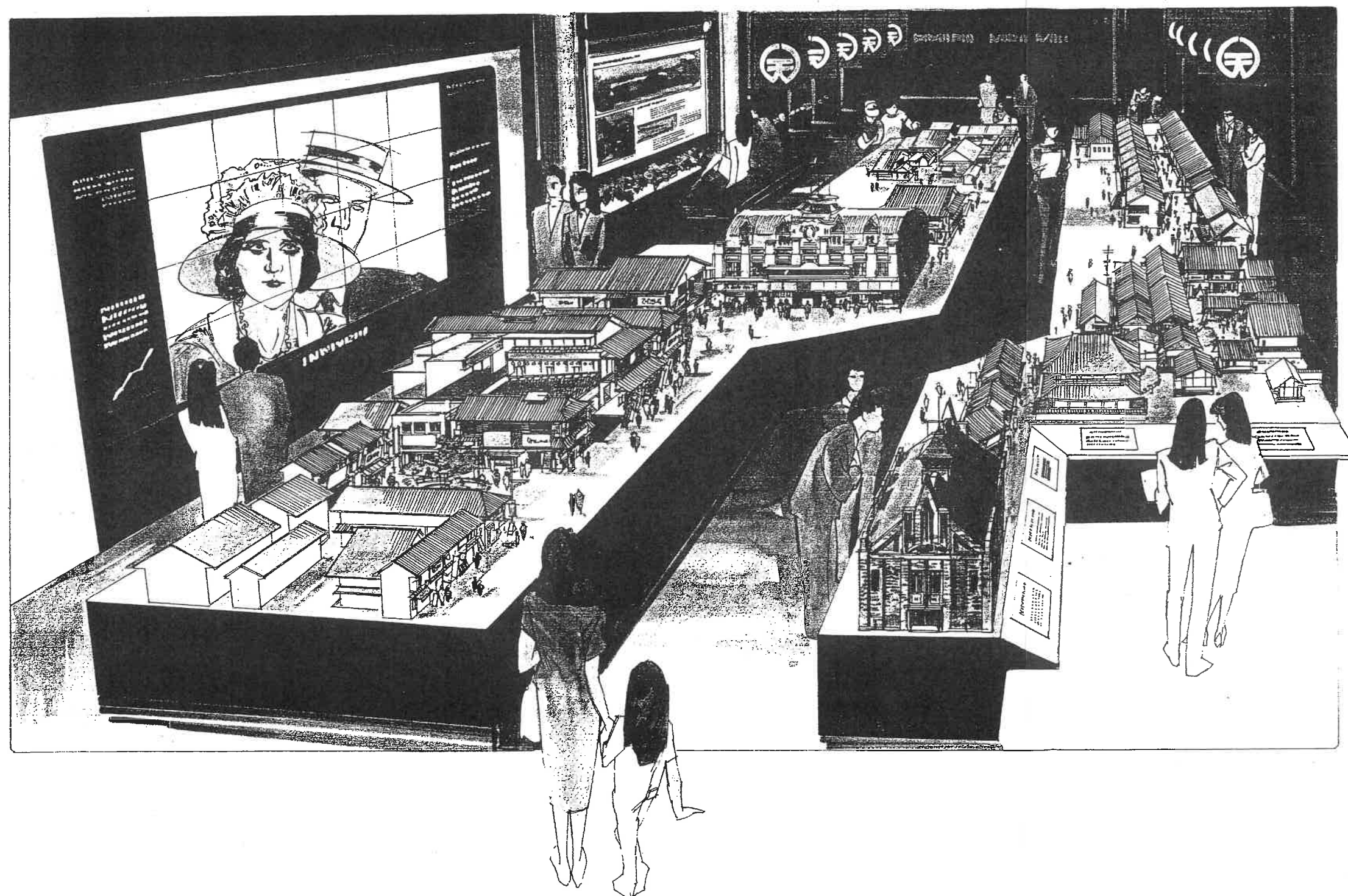
総合通史展示「広島」の歴史 1・2













《展示に関連した留意事項》

展示内容の理解を深めるためには、展示空間やそれ以外の場面をとらえて展示に関連した事業の展開を図る必要がある。また外国人や障害者等に対する配慮も心がけ、展示内容を効果的に訴えることができるよう検討する。

① 各事業との連携

- 学習部門との連携

展示理解を促進するための学習事業の推進や、団体や外国人に対する職員による事前案内、各種パンフレットの配布、映像による館内・展示紹介などのオリエンテーションの実施を行う。

- 情報部門との連携

情報のデータベース化による的確な展示解説情報を提供し、展示に関連した書籍・雑誌など専門図書の公開を行う。

- 企画部門との連携

就学年齢による理解度を考慮した展示解説書やパンフレットの編集・発行を行う。

- サービス部門との連携

展示に関連したオリジナル商品や書籍などの販売を行うミュージアムショップや、展示に関連したメニューを提供するレストランの運営を行う。

② 観覧者への配慮

- 障害者等に対する配慮

点字解説書の発行、解説テープの製作、触れられる展示品の配置などの障害者等へ配慮した展示手法や内容を検討する。また、展示ケースの形態、展示資料・説明パネルの位置など展示空間にも配慮する。

- 外国人に対する配慮

説明パネルなどでの外国語併記や、外国語による総合展示解説パンフレットの発行、展示解説員の配置、オリエンテーションの実施など外国語での対応を検討する。

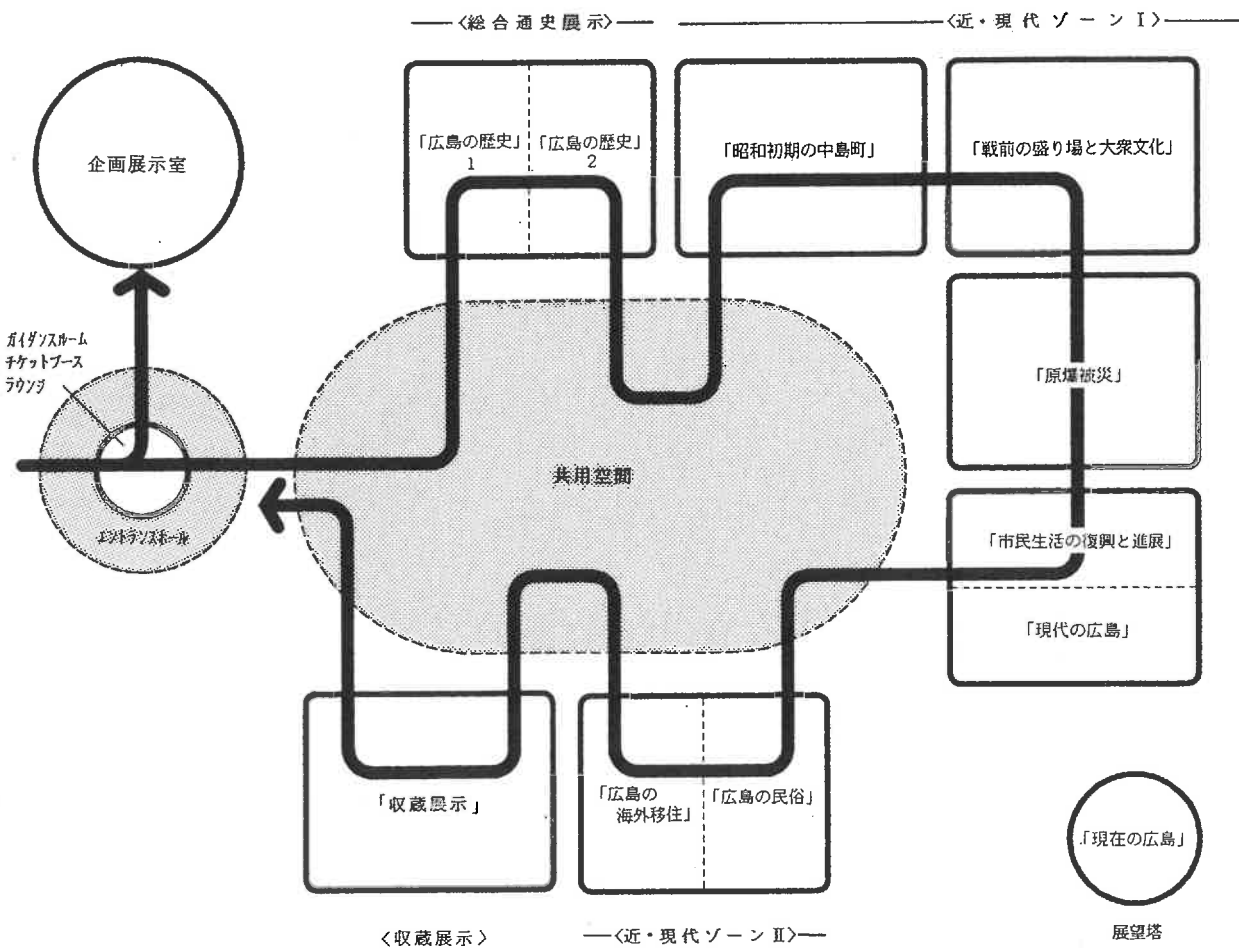
(3)

動線計画

《基本的考え方》

- ① 展示は常設展示と企画展示で構成されるが、それぞれエントランスから直接アプローチできる動線とする。
- ② 常設展示は、総合通史展示→近・現代ゾーンⅠ→近・現代ゾーンⅡ→収蔵展示という主動線を設定するが、強制動線とはせず、観覧者の興味や関心に応じて、選択可能な動線を確保する。
- ③ 常設展示は大規模なものになるので、適切な間隔でのレストスペースを確保する。
- ④ 展望塔からの市街地の眺望を、近・現代ゾーンⅠの展示ストーリーの一部に位置づけるが、一連の主動線からは切り離して考える。

《展示の動線》



5. 組織計画

(1)

組織・機能

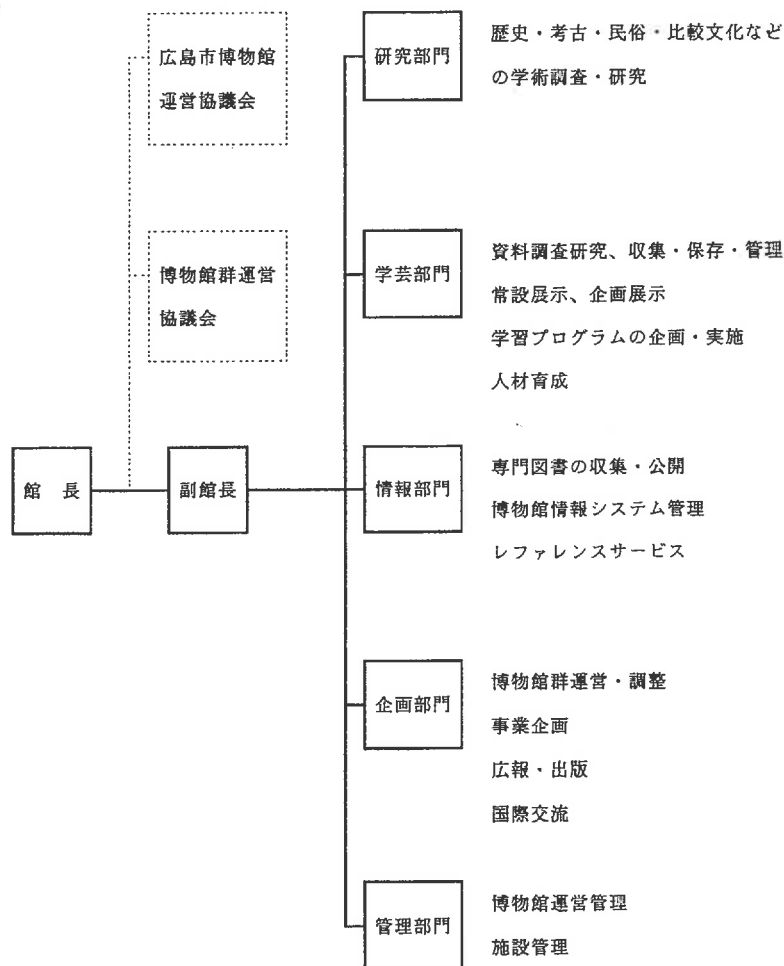
《基本的考え方》

従来の、わが国の博物館における組織体制の最大の課題は、博物館における「調査研究」「資料収集・保存」「展示」「学習（教育普及）」の各活動の大半が学芸職員に一括され、しかもその人員は、全般的に見て十分ではないというところにある。

当館は新しい文化創造の拠点をめざした新しい博物館である。すなわち、当博物館の位置づけは、人文社会系の専門館として広島近・現代に重点をおく博物館であるだけでなく、人文社会系の中央館の役割を持つものであると同時に、広島市博物館群のセンターとして機能するものである。したがって、当館の事業展開においては、高い専門性を有する独自の「研究」事業を確立すると共に、広い視野に立つ市民参加型の博物館として、市民の学習活動の促進と支援を行おうとするものである。こうした事業計画の特色が最大限発揮されるような組織・機能を検討する必要がある。

上記の考えをふまえて、次の組織・機能を案として提示する。

《組織・機能（案）》



組織・機能（案）は、以下の点に留意した。

① 「研究」機能の独立性。

- 研究機能を独立させ、研究活動の独立性を確保する必要がある。
- 積極的な研究者交流を図る目的から、客員研究員の受け入れ枠の設定などの体制を整える必要がある。

② 「情報」「企画」の両機能の独立性。

- 各種博物館情報の管理・サービスを充実させる「情報」機能と、魅力的な事業企画を展開する「企画」機能を専門特化する。

③ 市民による博物館運営の参加。

- 市民や学識経験者の意見を館の運営に反映させるため、「広島市博物館運営協議会」の設置を検討する。

④ 博物館群の運営調整をはかる組織機能の設定。

- 市立の各博物館職員の構成による協議組織として「博物館群運営協議会」を検討する。

開館に向けて、こうした組織・機能に対応した体制と人員配置の具体的な検討を進めていく。

《職員の資質》

- ① 研究部門では、共同研究や研究者交流に応えうる高度な専門性を有する者を配置する。
- ② 学芸部門では、歴史・民俗など学術分野において高い専門性を有する者を配置する必要がある。
- ③ 資料保存・管理については、欧米の博物館における「preservator」または「conservator」に相当する専門職員の配置を検討する。
- ④ 学習においては、専門的な知識を要求される素材を学習者のレベルに合わせて加工しうる資質を有する者を配置する。
- ⑤ 情報部門については、情報システムの開発・管理運営に関する有資格者を配置し、図書閲覧室については、学術文献のレファレンスも可能な高い資質の職員を配置する必要がある。
- ⑥ 企画部門については、文化創造を促進する仕掛けづくり、仕組みづくりなどの企画・運営ができる者を配置する。

《必要な人員》

高い専門性を発揮できるような適正な業務量を考慮するとともに、人材確保の観点からも十分な職員の配置が必要である。

6. 管理・運営計画

(1) 運営計画

《基本的考え方》

- ① 市民からの幅広い支援と共感を得るための運営
「市民指向の博物館」として、市民と一体となった運営をめざす。
- ② 「博物館群構想」を具現化するための総合的な調整力の確保
県内外あるいは海外をも含めた広域的なネットワーク体制の整備や、関連機関・諸団体との連携など、全体を調整する総合的な調整力が必要となる。
- ③ 長期的な視点に立った計画的な運営
年次計画の他に、中・長期の計画を立て、組織の見直しや職員の配置、施設の拡充、周年事業の計画等を策定し、活動へ反映させる。
- ④ 快適性・利便性への配慮
来館するすべての人々が快適で適正なサービスを受けられるよう、その運営に最大限の注意をはらう。
- ⑤ 安定的な財源の確保
通常の博物館の領域を超えて広範囲となる事業活動に伴い、施設規模の大型化も想定されるため、安定的な財源の確保が必要となる。

《運営時間》

公的文化施設の休館日や開館時間は、ほぼ定型化しているが、利用者の利便性重視の観点から、柔軟な対応への十分な検討が必要である。

- ① 開館日数
博物館法に基づく「公立博物館の設置及び運営に関する基準」では、1年の開館日数は250日を標準とすると記されているが、参考施設に見る開館日数は年間300日程度、広島市内の既存館においては年中無休（年末・年始は除く）とする施設も見られる。
- ② 休館日
定期的な休館日および臨時休館日を設定することとなるが、定期観光バスを受け入れる場合には、これに則した調整が必要である。なお、レストランの定休日は、比治山芸術公園の共用施設の観点から、別設定とする。
- ③ 開館時間
夏季、記念日、週末などの開館時間の延長や、平日の諸活動に関する市民の一般的就業時間を考慮に入れた運営など、柔軟な対応を検討する必要がある。付帯施設については、夜間の運営も含めて検討する必要がある。

《利用料の設定》

① 基本方針

博物館の利用料の設定にあたっては、市民の幅広い利用を促進するために可能な限り負担の少ないことが理想であるが、市内の文化施設及び他都市の類似館を参考にしながら適正な料金を設定する。展示部門については有料とし、同じ比治山芸術公園内に立地する広島市現代美術館をはじめ、市内施設を参考に設定する。なお、特別展示、企画展示については、そのつど、内容によって料金を設定する。また、情報部門については原則的に無料とするが、コピーサービスや端末からのプリントアウト等については実費徴収も検討する。学習部門については、教材費等の実費徴収を原則とする。

② 料金の減免措置

学校教育を補完するもの、文化の日、子供の日、開館記念日等、未就学児童、老人、身障者、留学生などについては、減免措置を設定し得る。

《利便施設》

広島市博物館は、来館者にとって高い学術性に裏打ちされた「知識」を得る場であると同時に、文化的な香りの中でくつろぎや交流などの「楽しみ」を得る場であることをめざしている。

したがって、本来的な博物館事業のための諸施設の充実と共に、「生活を楽しむ場」としての諸機能施設にも十分な配慮を加える必要がある。

設置提案例としては、以下のような施設が考えられる。

① ミュージアムショップ

当館の展示内容や学習活動に即したものの販売し、ユニークで魅力のある物品の提供を主眼とし、本市の姉妹都市に関連する物品の陳列と販売も考えられる。展示をはじめとする博物館活動支援の一環として、魅力的な商品を開発するなど販売力のある活性化したショップ展開をはかる。

② レストラン・喫茶

比治山芸術公園全体の共用施設として位置づけ、芸術公園への来園者全般を顧客像として描く。立地上、良好な眺望を確保することも可能であり施設の付加価値として利用できる。また、特徴あるレストラン・喫茶を複合的に展開することにより、バラエティーと賑いの雰囲気演出でき、比治山芸術公園のシンボルスポットとして吸引力も増すものと考えられる。

レストラン・喫茶は以下のものを提案したい。

- 展望レストラン

広島市街地の眺望をひとつのセールスポイントとして、比較的グレードの高い店舗展開とする。メニュー内容にも広島らしさを工夫するなど個性のあるものとし、美術館や当館テーマに関連するものを用意することも考えられる。また、「夕食と夜景」も十分な吸引力を持つものと考えられるので、夜間の営業も検討する。

- 和・洋レストラン

展望レストランとは性格を変え、家族連れや、ひとりでも気軽に利用できる雰囲気店舗展開とする。展望レストラン同様、美術館や当館テーマ、企画展などに関連させた楽しいメニューも考えられる。

- 喫茶

個性と話題づくりの観点から、当館にふさわしく、旧中島町の「カフェブラジル」を意識した雰囲気を取り入れる等、考えられる。

《民間企業の協力・支援》

最近、企業が「メセナ」として、文化的意義のある事業やイベントを行う例が多く見られる。文化・芸術活動への参加や貢献により、企業の文化度を高め、企業イメージを高めることによって、生活者との良いコミュニケーションをはかろうとするものである。

こうした企業活動を当館への協力・支援に結びつけることも考えられる。

《施設管理業務》

施設の持つ機能を十分に発揮させつつ、快適性・利便性を維持するため、警備・保安・防災、館内外の清掃、植栽の保守管理、建築施設、設備の保守管理、展示設備の保守管理、情報サービス機器の保守管理、収蔵庫の環境管理等を行うが、これらの業務は外部に委託する事例が多い。

(2) 収支計画

《収入概算》

① 観覧料の想定

ここでは、広島市現代美術館での現行の料金を基にする。

	個人	団体 (30名以上)
一般	300円	240円
高校・大学	200円	160円
小・中学	100円	80円

② 入館者想定

他政令指定都市等の歴史系博物館施設における平成2年度入館者数の平均値を基に年間入館者数を想定する。

館名	年間入館者数(人)	展示部門面積(m ²)
仙台市博物館	214,272	3,306
福島県立博物館	239,230	2,917
川崎市市民ミュージアム	199,519	6,043
名古屋市博物館	578,890	3,898
神戸市立博物館	156,043	3,124
福岡市博物館	301,055	4,835
計	1,689,009	24,123
平均	約70(人)/m ²	

※展示部門面積は展示諸室の合計

- $$\begin{array}{lcl}
 \bullet 1\text{m}^2\text{あたりの} & \times & \text{広島市博物館施設基本計画の} \\
 \text{年間平均入館者数(人)} & & \text{展示部門面積(m}^2\text{)} \\
 70 & \times & 5,283 \\
 & & = 369,810
 \end{array}$$

従って年間入館者数は、約370,000人となる。

③ 収入の想定

- 観覧料収入

福岡市博物館の来館者層構成率を基に年間観覧料金を算定する。

		構成率 (%)	年間人数 (人)	料 金 (円)	有料率 (%)	収入金額 (千 円)
一 般	個 人	60	222,000	300	90	59,940
	団 体	14	51,800	240	90	11,189
高 校	個 人	5	18,500	200	90	3,330
大 学	団 体	1	3,700	160	90	533
小 ・	個 人	16	59,200	100	90	5,328
中 学	団 体	4	14,800	80	90	1,066
計						81,386

※千円以下は四捨五入

従って、年間観覧料収入は約81,386（千円）となる。

- その他の収入

観覧料収入の他に、団体・企業・個人からの事業活動基金、企画展・イベント等の事業収入、テナント収入などが考えられる。

《支出概算》

① 年間運営費の想定

他政令指定都市等の歴史系博物館施設を参考に年間運営費を想定する。

	事業運営費 (千 円)	管理運営費 (千 円)	合 計 (千 円)	延床面積 (㎡)
仙台市博物館	131,100	207,326	338,426	10,830
福島県立博物館	115,947	168,464	284,411	10,980
川崎市市民ミュージアム	386,000	352,000	738,000	19,540
名古屋市博物館	325,690	266,611	592,301	18,450
神戸市立博物館	151,330	159,400	310,730	10,070
福岡市博物館	361,000	377,000	738,000	16,730
計			3,001,868	86,600
平均			約34.7 (千円) / ㎡	

※平成2年度実績

・ 1㎡当りの
 平均事業運営管理運営費 (千円)
 × 広島市博物館施設基本計画
 の延床面積 (㎡)

$$34.7 \times 22,000 = 763,400$$

従って年間運営費は約763,400 (千円) となり、
 これに人件費を加えたものが支出の見込みとなる。

(3)

関係法規

《法令の種類》

博物館施設に関わる法令は、その設立の根拠となる法律をはじめとして、建造物の土地利用や設備に対する取り決め、職員の資格規定、資産運用や免税特権を定義したものなど、数多くある。今後、展示、建築、運営の具体化においては、これら関連法規に則った方向で、各計画を推進していく必要がある。

7. 施設計画

(1) 施設内容

事業計画にもとづき、必要とされる主要な諸室を抽出した。

	特 徴	室 名
展示	常設展示と企画展示の、2構成とする。	・常設展示室 ・企画展示室 ・主催者控室 ・展示準備室 ・展望塔
学習	市民の活発な参加を引き出せる活動が、多彩に展開できる施設内容とする。 ・滞館時間など、ある程度拘束されがちな団体利用者に対し、事前に館の全体像が把握可能なオリエンテーションスペースを設ける。また雨天の場合の昼食スペースとしても配慮する。 ・市民の自主企画が展開できるギャラリースペースを設ける。 ・一般的な講堂の概念を超えた多機能で無駄のない利用ができるホールを設ける。また、このホールはオリエンテーションやギャラリースペースと一体となったゾーンとし、大企画展などに対応させる。 ・参加学習スペースとして、さまざまな学習プログラムに対応できるスペースを確保する。	・ガイダンスルーム ・ミュージアムギャラリー ・ミュージアムホール ・セミナー室 ・メンバーシップルーム ・講師控室 ・参加学習スペース（体験学習室） ・参加学習スペース（実習室①）、実習準備室① ・参加学習スペース（実習室②）、実習準備室② ・工作室 ・教材用資材庫 ・電気炉室

	特 徴	室 名
情報	当博物館及び広島市内の人文社会系博物館、さらに市内全博物館情報の集積と発信が行える施設内容とする • 時代に即した高度情報機能を持つ博物館として、コンピューターによる情報処理を行える施設を整備する。 • 図書情報の収集と公開のための施設を整備する。 • マルチメディア情報及びコンピューターによる情報提供のための設備を設け、来館者にサービスを行う。 • 当館発の情報も製作できる施設を整備する。	• 図書閲覧室 • 図書整理室 • 書庫 • 情報ライブラリー • 放送録画スタジオ • 映像・音響調整編集室 • スタジオ控室 • AV機材庫 • コンピューター室 • 入力室 • 用品庫 • 保守員室 • データ保管庫 • 映像メディア制御室 • フィルム・テープ保管室
企画	群全体を視野に入れた企画立案や出版のための編集作業、さらに国際交流事業のための資料ストック作業のできるスペースを設ける。	• 企画編集室 • 国際交流事務室

	特 徴	室 名
サービス	利用者に開放された博物館として、快適性と利便性の高い施設内容とする。 • レストラン、ミュージアムショップなど楽しさを演出できるスペースを重視する。 詳しくは運営計画で述べる。 • 館フロントでのホスピタリティーにも、十分配慮した施設内容とする。市民はもとより、市外、海外からの来館者にも親切なサービスが行える設備を設ける。	• 医務室 • チャイルドルーム • レストラン群 • ミュージアムショップ • クローク • ラウンジ（国際インフォメーション・ラウンジ 含） • チケットブース • 大型バス用乗務員控室 • 屋外トイレ
調査研究	共用のオープンスペースとして設定する。 • 高度な研究活動に対応する設備と快適な空間を整備する。 • 共同研究室を設け、複数のスタッフによる企画展、準備作業などに対応させる。 • 収集・保管資料にかかわる諸室に関しては、収蔵庫周辺に位置づける。	• 研究室、共同研究室 • 客員研究室①② • 研究図書室 • 特別閲覧室①② • カード室 • 撮影スタジオ、暗室 • マイクロフィルム撮影室 • 撮影機材庫 • 映像試写室 • ミーティングルーム ①② • 借用資料保管庫

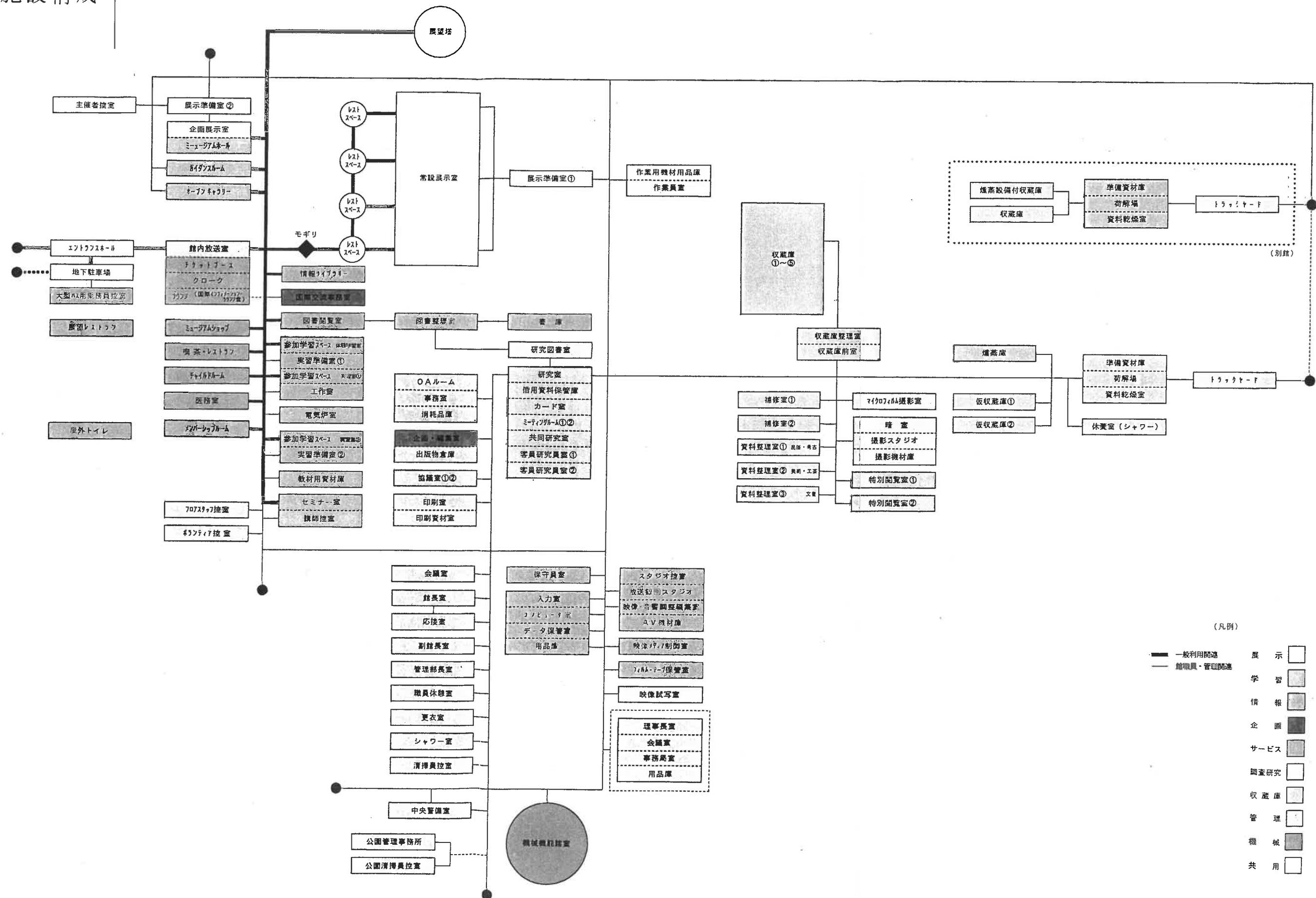
	特 徴	室 名
収蔵	広範囲にわたる資料の特性に即した収蔵庫設備の整備と、資料が収蔵庫に納まるまでに必要な標準諸室を設ける。 • 荷解場から収蔵庫に至る諸機能室は、合理的な順列とし、同一平面で直線的な構成を基本とする。	• 収蔵庫①～⑤ • 収蔵庫整理室 • 収蔵庫前室 • 補修室①② • 資料整理室①②③ • 燻蒸庫 • 仮収蔵庫①② • 準備資材庫 • 荷解場 • トラックヤード • 資料乾燥室
管理	多くの職員が働く場として快適性・利便性の高い設備と機能を設ける。また、館運営を司る中軸として、対外的にも重要な接点であり、良好な印象を与え得るものとする。 • 会議室は、センター機能の一部として、大会議室にも利用できる仕様とする。また視察団などにも対応するものとする。 • 展示室や館内で、さまざまな業務やサービスにあたるフロアスタッフが、更衣や休憩に使えるスペースを設ける。 • 職務別による孤立化を防ぐため、一般管理事務室と学芸部門を近接させる。	• 館長室 • 副館長室 • 応接室 • 管理部長室 • 事務室 • 協議室①② • 会議室 • O A ルーム • 印刷室、印刷資材室 • 出版物倉庫 • 消耗品庫 • フロアスタッフ控室 • ボランティア控室 • 作業員室 • 更衣室 • 作業用機材用品庫 • 職員休憩室 • 中央警備室 • シャワー室 • 館内放送室 • 清掃員控室 • 公園管理事務所 • 公園清掃員控室

	特 徴	室 名
機械	「施設基本計画」で検討する。	・中央制御室 ・空調機械室 ・電気室 ・消火ポンプ室 ・ハロンボンベ室 ・受水槽室 ・熱源機械室
センター	管理運営の組織のための施設を整備する。	・理事長室 ・事務局室 ・会議室 ・用品庫
共用	館利用を拡充する重要な要素であり快適性、利便性、安全性などと共にドラマ性、演出性も重視する。 駐車場は比治山芸術公園全体での利用の立場から、十分なスペースを確保する。	・エントランス・ホール ・通路 ・階段 ・便所等 ・地下駐車場

- 一般的な倉庫、トイレ等は適切な位置に配置する。

(2)
主要施設構成

《主要施設の関係図》



上図は施設内容の相互関係を示しており、空間を想定したものではない。

8. アクセス

(1) 建設予定地 及び 周辺環境条件

《比治山の特性》

① 地形

- 比治山は、太田川水系によって形成されたデルタの中の島状の丘陵地で、東西 500m、南北 1,000m、約29haの面積を持ち、標高は 3m～71mである。傾斜度が 10° 以下の平坦地は非常に少ない。

② その他

- 植生は、クスノキ、カシ、ヤブツバキなどの照葉樹を中心とした暖帯性樹林で、野鳥はヒヨドリ、キジバトなど16種が観察されており、また渡り鳥の一時的な休憩場所となっている。

《広島市民にとっての比治山の位置づけ》

① 歴史

- 比治山は、太古広島湾の沖に浮かぶ島であったといわれ、南麓には、県の史跡である縄文後期の比治山貝塚がある。藩の所有地であったが、明治以後国有地となり、市が管理している。県史跡の植田良背の墓、頼家の墓、句碑、記念碑があり、多聞院内には市指定重要有形文化財「絹本著色両界曼荼羅」がある。

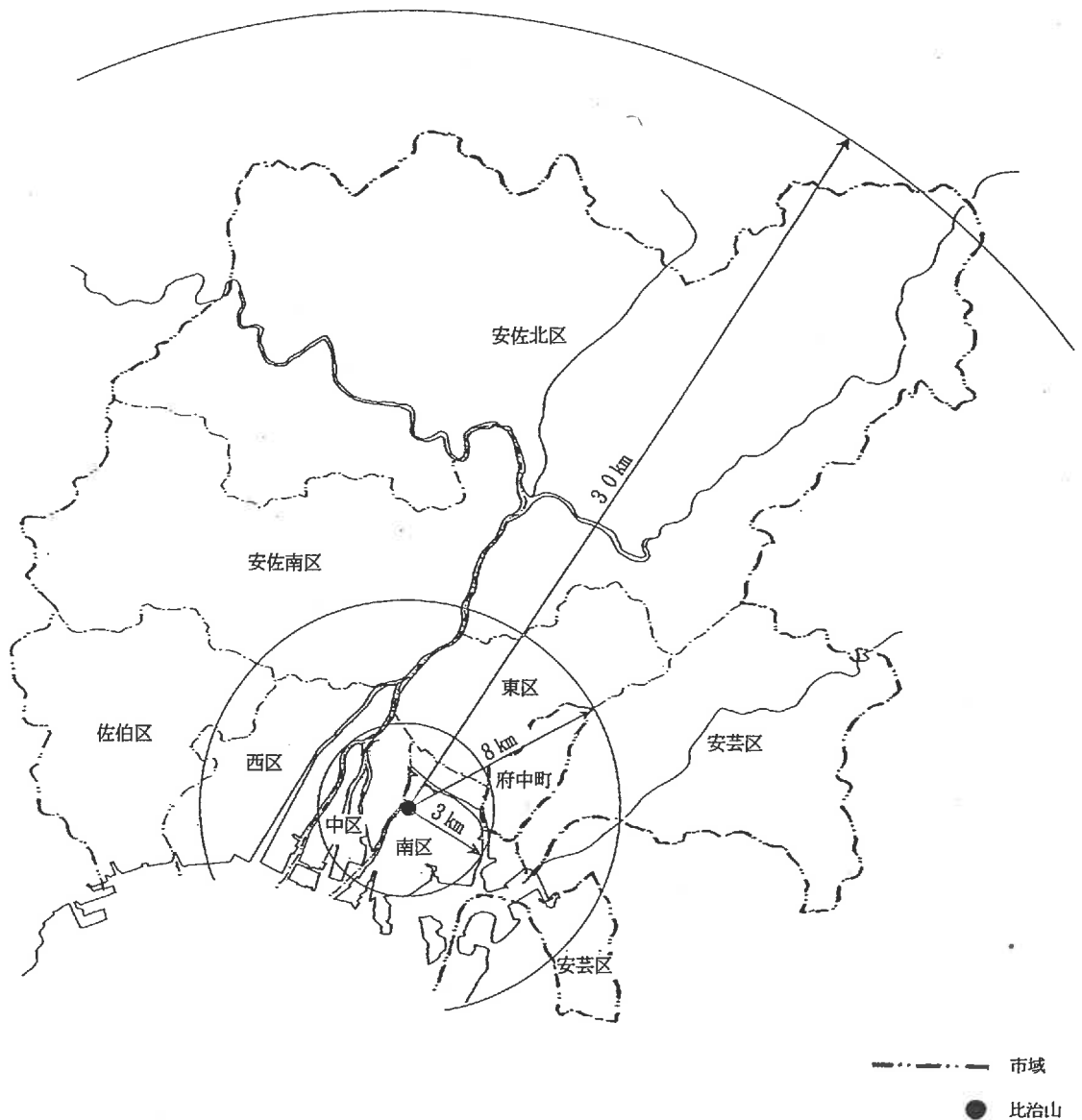
明治5年	陸軍基地設立。
明治31年	国有林を公園として一般公開。（江波山とともに広島市最初の公園）
明治42年	御便殿を西練兵場から移設。
昭和4年	広島産業博覧会の会場の一つとなる。（都市公園としての体裁整う）
昭和20年	原爆により園内の大部分が消失。
昭和26年	原爆障害調査委員会建物（現在の放射線影響研究所）の設置。
昭和27年	平和記念都市建設計画公園として整備される。
昭和36年	公園整備事業として広場造成、園路整備、プレイロットの整備が進められる。
昭和46年	都市計画公園のうち、総合公園として決定される。
昭和55年	広島市の政令指定都市記念事業として比治山芸術公園基本計画が策定される。
昭和57年	比治山芸術公園基本設計により、現在の芸術公園整備の内容が決定される。
昭和58年	青空図書館開館
平成元年	広島市現代美術館開館

② 利用状況

- 自然に恵まれた比治山は、古くから、四季を通じて市民の憩いの場として親しまれて来たほか、日常的な文化活動の場としても利用されていた。
- 平成元年には広島市現代美術館が開館し、観光的要所としての位置づけも明確となり、広島市の文化性を担う拠点として、確実に定着しつつある。

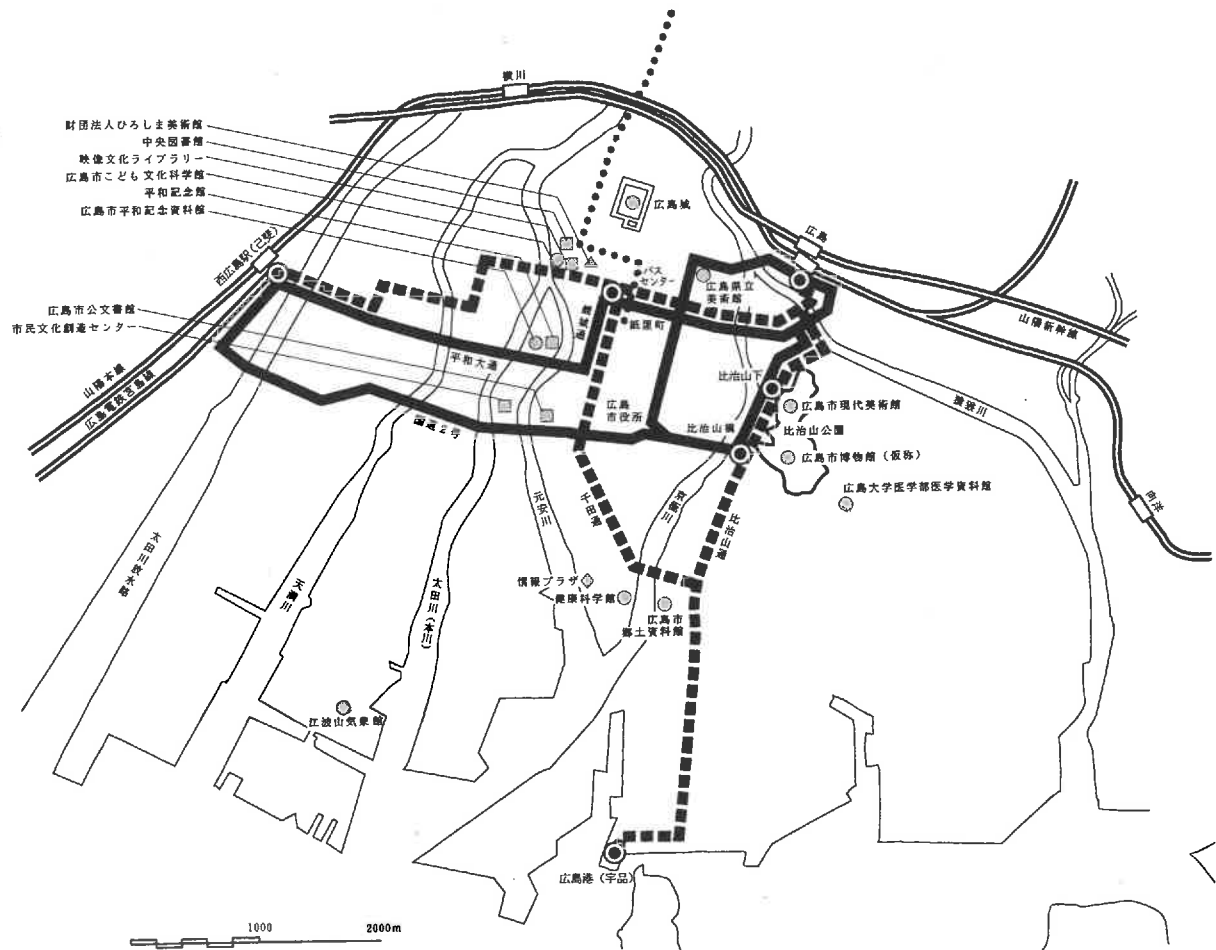
《市域からみる地理的な位置》

- 広島市街内中心の東方約 1.5km、中区と南区の境界を流れる京橋川の東畔に位置する丘陵地である。
- 市街地に隣接しながらも比較的自然に恵まれ、山頂からの眺望も優れ、市街地を望む格好の展望地であり、平和大通のランドマークとして都市景観上の核である。
- 市域全体からの位置はほぼ30km圏内で、中心市街地からは 3 km圏内である。



《市街交通網からみた位置》

市街地における道路網の密度は高く、比治山周辺の道路網のサービスレベルも非常に高いといえる。比治山への公共交通機関は広島駅、西広島駅（已斐）、紙屋町、広島港（宇品）が起点となり、それぞれに電車、バスが連絡されている。詳しくは、アクセス計画の考え方の項でふれる。



- 路面電車
- バス路線
- 新交通システム
- 比治山に関連する主な交通起点
- 市立博物館
- 他団体博物館
- 市立文化施設
- 他団体文化施設

(2)

アクセス

《基本的考え方》

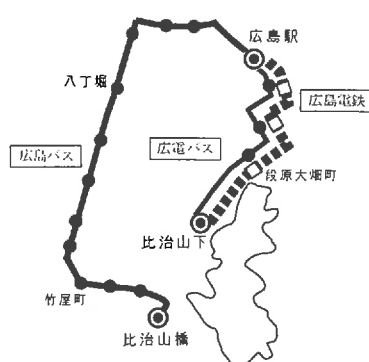
市民の自主的な学習・研究活動を促し、日常的な気軽さで、当館へ足を運んでもらうための、適切なアクセスを確保することが重要となる。

《市域からのアクセスの現状》

ここでは市内の交通拠点である広島駅、西広島駅、紙屋町、宇品港からの公共交通機関でのアクセスの現状を分析する。

①広島駅から比治山芸術公園

平成3年4月現在



広電バス

所要時間：6分	本数/日：40本	休日本数/日：30本
広島駅前	(途中3駅)	比治山下

広島バス

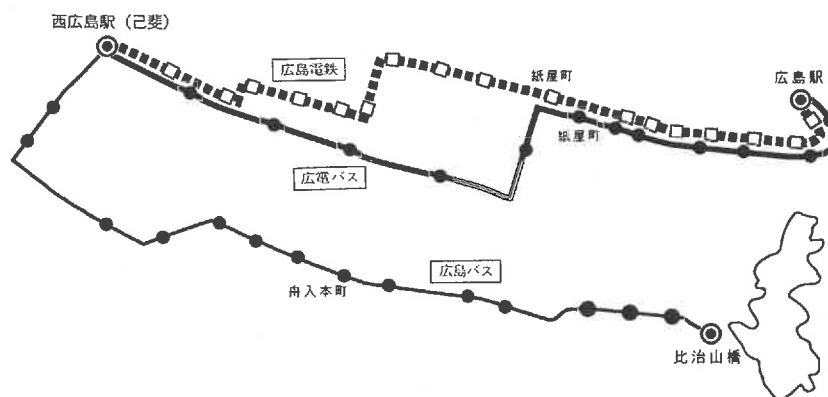
所要時間：12分	本数／日：49本	休日本数／日：45本
広島駅（途中4駅）— 八丁堀（途中3駅）— 竹屋町（途中2駅）— 比治山橋		

広島電鉄

所要時間： 8分	本数／日：124本	休日本数／日：111本	
広島駅	(途中2駅)	段原大塚町	比治山下

図の線の太さの差は交通量を表す

②西広島駅（己斐）から比治山芸術公園



広電バス

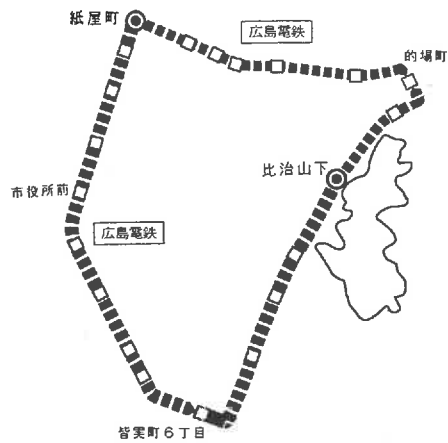
所要時間：19分	本数/日：50本	休日本数/日：35本		
己斐	——（途中7駅）——	舟入本町	——（途中6駅）——	比治山橋

広島電鉄

所要時間：28分	本数／日：146本	休日本数／日：133本
----------	-----------	-------------

己斐	(途中9駅)	紙屋町	広島駅
----	--------	-----	-----

③紙屋町バスセンターから比治山芸術公園



広島電鉄

所要時間：13分	本数/日：389本	休日本数/日：366本
----------	-----------	-------------

※直行路線なし

紙屋町	—(途中5駅)—	的場町	—(のりかえ)—	(途中1駅)	比治山下
-----	----------	-----	----------	--------	------

広島電鉄

所要時間：22分	本数/日：291本	休日本数/日：281本
----------	-----------	-------------

※直行路線なし

紙屋町	—(途中3駅)—	市役所前			
	(途中4駅)	皆実町6丁目	—(00分)—	(途中4駅)	比治山下

④広島港（宇品）から比治山芸術公園



広島電鉄

所要時間：20分	本数/日：124本	休日本数/日：111本
----------	-----------	-------------

宇品	—(途中8駅)—	皆実町6丁目	—(途中3駅)—	比治山下
----	----------	--------	----------	------

《市域からのアクセスの問題点》

- ① 交通拠点から公共交通機関による比治山のふもとまでのアクセス
 - 西広島駅からのアクセスは、運行本数が少ない。
 - 紙屋町からのアクセスは、直行便が運行していない。（紙屋町はバスセンターや新交通システムの終着点であり、商業施設などが集積し、人の流れが集中する重要な交通拠点である。）
- ② 交通拠点から当館等への直接アクセス
 - 現在はタクシー利用に限られている。

《市域からのアクセスの改善案》

- ① 紙屋町などから比治山のふもと、あるいは比治山山頂に至る直通路線バスの運行

公共交通機関による紙屋町から比治山下へのアクセスは、バス、電車とも直通路線がなく乗り換えなどによるため、利便性に欠ける。広島交通要所である紙屋町から比治山下までの直通路線の検討が望まれる。

- ② 市内の文化施設を結ぶシャトルバスの運行

広島駅、紙屋町を発着点とする市内文化施設（広島城・平和記念公園・比治山芸術公園など）を結ぶバスの運行が考えられる。これは文化施設、観光施設を連結し、周遊券、フリー 1 日乗車券などによって、市民及び観光客の利便性を高め、自由な回遊性を保障する利点がある。また電車とのジョイントも考えられる。

なお、現行（平成 3 年）、市内定期観光バスは 1 コース運行されており、1 日あたり 6 本運行され、所要時間は 3 時間 20 分である。

《ふもとからのアクセスの現状》

- ① 比治山周辺のふもとからのアプローチ道路は7本あり、西の電車通り側に3本、段原側に3本、南の国道側に1本となっている。



- ② 車両でのアプローチが可能な道路は、文徳殿側の1本と、段原側の2本となっているが、いずれも現在、バス路線とはなっていない。なお、比治山芸術公園基本設計では、この文徳殿側からアプローチし、南側に抜ける道が、一方通行の車両道路として設定されている。

《ふもとからのアクセスの問題点》

- ① 比治山のふもとから当館までの標高差は、約47mである。徒歩によるアクセスは、高齢者や障害者の利用にとって障害となると共に、健常者にとっても心理的な負担となる。

《ふもとからのアクセスの改善案》

① アクセス装置の設置

- シャトルバスの運行
- エスカレータの設置
- エレベータ、斜行エレベータの設置

等が考えられる。なおこれらは、ふもとへ至るアクセスの改善案とともに包括的に検討する必要がある。また搬送機器の設置については、詳細な技術的検討が必要である。

展示基本計画策定関係機関および関係者

(1) 視察および調査を行った博物館並びに関連施設〈北から都道府県別・都道府県の中では五十音順〉

①国内

北海道開拓記念館
北海道開拓の村
仙台市博物館
福島県立博物館
国立歴史民俗博物館
千葉県立中央博物館
千葉県立房総の村
浅草賑いみゅーじあむ
NHK放送博物館
江東区深川江戸資料館
国立科学博物館
新宿区新宿歴史博物館
世田谷区世田谷美術館
台東区下町風俗資料館
たばこと塩の博物館
東京国立博物館
東京電力館

東京都葛西臨海水族園
川崎市市民ミュージアム
横浜美術館
横浜マリタイムミュージアム
富山県立近代美術館
石川県立美術館
石川県立歴史博物館
福井県立博物館
名古屋市博物館
大津市歴史博物館
京都府京都文化博物館
大阪国際平和センター
大阪市立科学館
大阪市立博物館
大阪府立弥生文化博物館
海遊館
交通科学館

国立民族学博物館
神戸市立海洋博物館
神戸市立博物館
竹中大工道具館
UCCコーヒー博物館
米子市美術館
日本はきもの博物館
広島県立歴史博物館
広島県立歴史民俗資料館
徳島県立近代美術館
徳島県立図書館
徳島県立21世紀館
徳島県立博物館
徳島県立文書館
福岡市博物館

①北米

モントリオール現代美術館
モントリオール美術館
オールド・スターブリッジ・ビレッジ
ニューイングランド水族館
ボストン科学博物館
ボストンこども博物館
ボストン美術館
アメリカ自然史博物館
ニューヨーク近代美術館
メトロポリタン美術館
国立アメリカ歴史博物館
国立航空宇宙博物館
国立自然史博物館
全米日系人博物館
ロサンジェルス現代美術館
エプコットセンター
ユニバーサルスタジオ

(2) 聞き取り調査等にご協力いただいた方〈敬称略・五十音順〉

Arthur P. Molella	(国立アメリカ歴史博物館 Chairman: Department of History of Science and Technology)
Irene Y. Hirano	(全米日系人博物館 Director)
阿部光博	(メトロポリタン美術館 東洋美術部)
安藤良策	(江戸東京博物館 東京都生活文化局コミュニティ文化部・江戸東京博物館担当課長補佐)
宇治谷恵	(国立民族学博物館 情報管理施設標本資料係長)
梶谷宣子	(メトロポリタン美術館 Conservator: Textile Conservation)
柏村行男	(江戸東京博物館 財団法人江戸東京歴史財団総務課課長補佐)
川尻秋生	(千葉県立中央博物館 歴史科主任技師)
吉良国光	(福岡市博物館 学芸課主査)
笹井謙三	(国立民族学博物館 管理部施設課建築係長)
佐々木和博	(仙台市博物館 学芸室指導主事・学芸員)
佐々木昇三	(福岡タワー 福岡タワー株式会社企画課長)
庄司昭夫	(仙台市博物館 庶務係長)
高平義明	(神戸市立博物館 管理課管理係長)
千鳥義太郎	(福岡市博物館 庶務課係長)
Chang-su Houchins	(国立自然史博物館 Specialist in Asian Ethnology: Department of Anthropology)
Don T. Nakanishi, Ph. D.	(UCLA Director: Asian American Studies Center)
坂東安彦	(徳島県立21世紀館 情報システム担当主事)
広瀬和彦	(大阪府立弥生文化博物館 学芸課長)
福井万千	(広島県立歴史民俗資料館 学芸課長)
三木美裕	(ボストンこども博物館 Japan Program)
森尚登	(千葉県立中央博物館 普及課技師)
横尾四郎	(川崎市市民ミュージアム 川崎市教育委員会社会教育部文化課主査・川崎市市民ミュージアム兼務)
Richard J. Nicastro	(国立アメリカ歴史博物館 Deputy Assistant Director: Department of Exhibitions and Public Spaces)
若林繁	(福島県立博物館 専門学芸員)

